

# 伊勢崎市の住まいや住環境に関する 市民アンケート調査

## 報告書

令和4年10月

伊 勢 崎 市

## 目 次

1. 調査方法	1
1.1. 調査方法の概要	1
1.2. 集計方法	2
1.3. 調査票	3
2. 単純集計の結果	9
2.1. 回答者の属性	9
2.1.1. 世帯主について（問 1）	9
2.1.2. 世帯について（問 2）	11
2.1.3. 離れて暮らす親や子との同居に関する意向（問 3）	14
2.1.4. 希望する同居形態（問 4）	15
2.1.5. 居住地域（問 5）	15
2.2. 現在の住宅や住環境の状況	16
2.2.1. 住宅の種類（問 6）	16
2.2.2. 住まなくなった後の想定（問 7）	16
2.2.3. 空家の未然防止策の認知度（問 8）	17
2.2.4. リフォーム支援の認知度（問 9）	18
2.2.5. 住宅の構造（問 10）	19
2.2.6. 住宅の完成時期（問 11）	19
2.2.7. 毎月の住居費（問 12）	20
2.2.8. 住居費負担度（問 2 と問 12）	21
2.2.9. 住宅の広さ（問 13）	22
2.2.10. 住宅や住環境の満足度と重要度（問 14）	23
2.3. まちづくりの方針の認知度	29
2.3.1. 立地適正化計画の認知度（問 15）	29
2.4. 地震・洪水・土砂災害などに対する備え	29
2.4.1. 耐震診断・耐震改修を実施する上での問題点（問 16 あてはまるものすべて選択）	29
2.4.2. 自然災害に対して不安なこと（問 17 あてはまるものすべて選択）	30
2.4.3. 市の HP にあると良い情報（問 18 あてはまるものすべて選択）	30
2.5. 65 歳以上になった時の住まい	31
2.5.1. 65 歳以上になった時の希望の住まい（問 19）	31
2.6. 子育てしやすい住宅・住環境	31
2.6.1. 子育てする上で問題だと感じる事（問 20 3 つまで選択）	31
2.7. 生活困窮者への支援制度の認知度	32
2.7.1. 伊勢崎市の住居確保給付金制度（問 21）	32
2.7.2. 群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居支援制度（問 22）	32
2.8. 外国人住民の住宅・住環境	33
2.8.1. 外国人住民との面識（問 23）	33

2.8.2. 日本人住民と外国人住民が快適に生活するために不足している住生活支援（問 24 あてはまるものすべて選択）	33
3. 目的別集計（クロス集計）の結果	34
3.1. 住宅分野（空き家対策）	34
3.1.1. 高齢者は住まなくなった後の想定ができていますか	34
3.1.2. 高齢者は空き家未然防止施策を認知していますか	35
3.2. 都市計画分野（立地適正化計画）	37
3.2.1. どの年齢層の人がまちづくりに興味関心があるか	37
3.2.2. どの地域の人がまちづくりに興味関心があるか	37
3.3. 防災分野（耐震改修、自然災害への備え）	38
3.3.1. 昭和 55 年以前の住宅に住む人は耐震改修等を実施する上で何がハードルなのか	38
3.3.2. どの年齢層の人が自然災害にどのような不安を抱えているか	39
3.4. 環境分野（リフォーム支援施策の認知度）	40
3.4.1. どの年齢層の人がリフォーム支援施策を認知していますか	40
3.4.2. いつ頃に完成した住宅の居住者がリフォーム支援施策を認知していますか	40
3.5. 子育て分野（子育てする上での問題）	41
3.5.1. 現在子育てしている人の子育てする上での問題（18 歳未満と同居する世帯のみ）	41
3.5.2. 子育てしている人の住居費負担はどの程度か	42
3.5.3. 子育てしている人は三世帯居住を希望しているか	42
3.6. 高齢者福祉分野（希望する住宅）	43
3.6.1. 高齢者の状況によって希望する住宅にどのような差があるか	43
3.7. セーフティネット（生活困窮者支援の認知度）	44
3.7.1. 低所得者の認知度（伊勢崎市の住居確保給付金制度）	44
3.7.2. 低所得者の認知度（群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居支援制度）	44
3.8. 外国人住民	45
3.9. ニューノーマル、DX	46
3.9.1. 市の HP にあると良い情報	46
3.9.2. 在宅勤務等に適した設備・間取り	47
4. 自由回答（問 25）一覧	48

# 1. 調査方法

## 1.1. 調査方法の概要

次のとおり、アンケート調査を実施した。

表 アンケート調査実施の概要

目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・本市における住宅及び住環境に関するニーズと課題（施策の対象とすべき人々の状況）を明らかにする。</li><li>・前回調査と比較し、計画の進捗・評価に活用する（継続すべき施策と新設すべき施策の導出）。</li></ul>
調査方法	郵送及びWEB（市のシステム）による配布・回収
調査時期	令和4年9月17日～10月7日
対象者	市内の日本国籍を有する世帯主（満18歳以上） 住民基本台帳から無作為抽出（2,000世帯）
回収数	紙：545通、WEB回答：166通 合計：711通（回収率35.6%）
調査内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・回答者属性</li><li>・現在住んでいる住宅や住環境</li><li>・伊勢崎市のまちづくりの方針の認知度</li><li>・地震・洪水・土砂災害などに対する備え</li><li>・65歳以上になった時（既に65歳以上の方も含む）の住まい</li><li>・子育てしやすい住宅・住環境</li><li>・生活に困窮する方のための住まいの支援制度</li><li>・外国人住民の住宅・住環境</li><li>・そのほか自由記述</li></ul>

## 1.2. 集計方法

- 回収された 711 票のうち、紙回答と WEB 回答の間で二重回答でないことが明らかな 710 票を有効票として集計した。
- 「その他」による記述が可能な項目や、回答欄外に回答以外の記入がある紙回答は、それらを考慮した上で集計した。
- 比率（パーセント）は四捨五入の関係で合計値が 100%にならない場合がある。また、比率が 5%未満の項目はグラフ中のラベルを非表示としている。
- SA は単一回答（1つの設問に対して選択肢を 1つだけ選ぶ方式）、MA は複数回答（1つの設問に対して選択肢を複数選べる方式）を指している。MA の回答結果は、ある選択肢について、回答者のうち何割が選んだのかを示すため、回答数÷回答者数の割合で整理した。
- n は回答者の数を示す（無効回答者数は除く）。

## 1.3. 調査票

### 伊勢崎市の住まいや住環境に関する市民アンケート調査 アンケート調査へのご協力のお願い

市民の皆様には、平素より市政へのご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

伊勢崎市では、平成30年3月に策定した「伊勢崎市住生活基本計画（以下、本計画）」にもとづいて、市民の皆様のもっと身近なお住まいや、お住まいの周りの生活環境の向上に向けた各種の施策を計画的・総合的に推進しております。

策定より5年を経て、市を取り巻く社会・経済情勢の変化に対応するため、関連する市の各種計画の見直しを受け、本計画の改定を行うこととなりました。

このため、市民の皆様のお住まいや住環境に対する意識や要望などについて、本調査において幅広くお聞きし、改定のための基礎資料として活用したいと考えています。

調査の対象となる方は、本市にお住まいの世帯から無作為に2,000世帯を選ばせていただいております。なお、ご回答は無記名であり、内容につきましても統計的に処理しますので、ご回答者様にご迷惑をかけることは一切ございません。

お忙しいところ、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年9月

伊勢崎市長 臂 泰 雄


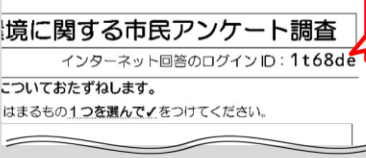
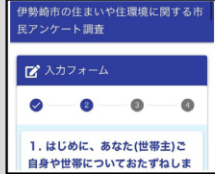
#### 回答のしかた

1. ご回答は、ご家族の皆様で相談していただき、原則として世帯主の方がご回答ください。
2. インターネットまたは紙の調査票で回答できます。お好きな方を選んでご回答ください。

#### ①インターネットで回答される方

**10月7日（金）**までにご回答ください

（PC、スマホ、タブレットで回答できます）

<b>1 二次元コードからアクセス</b>  <a href="https://logofarm.jp/form/Gpfu/144042">https://logofarm.jp/form/Gpfu/144042</a>	<b>2 調査票の右上のIDでログイン</b>  インターネット回答のログインID: 1t68de ID (6ケタ) ※ IDは二重の回答を防止するため使用します。 ※ ログインできない場合、紙の調査票で回答してください。	<b>3 回答する</b> 
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### ②紙で回答される方

**10月7日（金）**までに調査票を返信用封筒に入れて、

切手を貼らずに郵便ポストにご投函ください

ご記入につきましては、

- ①鉛筆か黒のボールペンでご記入ください。
- ②質問ごとに、あてはまる項目を選び、✓を付ける又は番号を○で囲んでください。  
「その他」を選んだ方は、（ ）内に、その内容を具体的にお書きください。

**お問い合わせ先 伊勢崎市 建設部 住宅課（担当：山田、大真）**

電話 0270-27-2764(直通) e-mail: juutaku@city.isesaki.lg.jp

# 伊勢崎市の住まいや住環境に関する市民アンケート調査

インターネット回答のログインID：1t68de

## 1. はじめに、あなた(世帯主)ご自身や世帯についておたずねします。

問1 あなた(世帯主)ご自身について、あてはまるもの1つを選んで✓をつけてください。

性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性		
年齢	<input type="checkbox"/> 10歳代	<input type="checkbox"/> 20歳代	<input type="checkbox"/> 30歳代	<input type="checkbox"/> 40歳代
	<input type="checkbox"/> 50歳代	<input type="checkbox"/> 60～64歳	<input type="checkbox"/> 65～69歳	<input type="checkbox"/> 70歳以上
職業	<input type="checkbox"/> 会社員・団体職員 (派遣・契約社員など含む)	<input type="checkbox"/> 公務員	<input type="checkbox"/> 自営業・個人事業主等	<input type="checkbox"/> 農林業従事者
	<input type="checkbox"/> パート・アルバイト	<input type="checkbox"/> 学生	<input type="checkbox"/> 無職	<input type="checkbox"/> その他( )

問2 あなたの世帯について、あてはまるもの1つを選んで✓をつけてください。

あなたを含む世帯の人数	<input type="checkbox"/> 1人	<input type="checkbox"/> 2人	<input type="checkbox"/> 3人	<input type="checkbox"/> 4人	<input type="checkbox"/> 5人	<input type="checkbox"/> 6人以上		
18歳未満の方の有無	<input type="checkbox"/> 18歳未満の方が世帯にいる			<input type="checkbox"/> 18歳未満の方が世帯にいない				
65歳以上の方の有無	<input type="checkbox"/> 65歳以上の方が世帯にいる			<input type="checkbox"/> 65歳以上の方が世帯にいない				
昨年1年間の世帯収入	<input type="checkbox"/> 200万円未満	<input type="checkbox"/> 200～300万円	<input type="checkbox"/> 300～400万円	<input type="checkbox"/> 400～500万円	<input type="checkbox"/> 500～600万円	<input type="checkbox"/> 600～800万円	<input type="checkbox"/> 800～1,000万円	<input type="checkbox"/> 1,000万円以上
世帯の構成	<input type="checkbox"/> 単身世帯	<input type="checkbox"/> 二世帯世帯(親と子)				<input type="checkbox"/> 三世帯世帯(親と子と孫)		
	<input type="checkbox"/> 夫婦のみ	<input type="checkbox"/> その他( )						

「単身世帯」「二世帯世帯(親と子)」「夫婦のみ」「その他」を選んだ方は問3へお進みください

「三世帯世帯(親と子と孫)」を選んだ方は問5へお進みください

問3 あなたは、離れて暮らす親または子と同居すること(二世帯同居や三世帯同居)についてどう思いますか。あてはまるもの1つを選んで✓をつけてください。

積極的に希望する  どちらかといえば希望する  希望していない  分からない

問4 問3で「積極的に希望する」「どちらかといえば希望する」を選んだ方におたずねします。どのような形態での同居を希望しますか。あてはまるもの1つを選んで✓をつけてください。

現在の住宅\*の空き室などを利用して同居 (※あなたの住んでいる住宅や、親または子の住宅)  現在の住宅\*を増改築して同居 (※あなたの住んでいる住宅や、親または子の住宅)

新築の住宅で同居  中古住宅や空き家などを活用して安く同居

その他( )

問5 お住まいの地域はどちらですか。1つを選んで✓をつけてください。

北地区  南地区  殖蓮地区  茂呂地区  三郷地区  宮郷地区

名和地区  豊受地区  赤堀地区  東地区  境地区

## 2. あなた(世帯主)が現在住んでいる住宅や住環境についておたずねします。

問6 あなた(世帯主)がお住まいの住宅の種類はどれですか。1つを選んで✓をつけてください。

<input type="checkbox"/> 一戸建ての持家	<input type="checkbox"/> 分譲マンション	<input type="checkbox"/> 民間賃貸住宅	<input type="checkbox"/> 給与住宅(社宅・寮)
	<input type="checkbox"/> 公的賃貸住宅(市営・県営など)	<input type="checkbox"/> その他( )	

↓  
「一戸建ての持家」を選んだ方は 問7へお進みください  
「一戸建ての持家」以外を選んだ方は、問10へお進みください

問7 あなた(世帯主)が住まなくなった後、現在の住宅はどのように使われると思いますか。1つを選んで✓をつけてください。

<input type="checkbox"/> 親族等が居住する予定	<input type="checkbox"/> 賃貸物件として貸し出す予定
<input type="checkbox"/> 中古物件として売る予定	<input type="checkbox"/> 取り壊す予定
<input type="checkbox"/> わからない(考えたことがない)	<input type="checkbox"/> その他( )

問8 伊勢崎市や群馬県では、住宅が空き家になることを防止したり、空き家の活用を推進したりする目的で、次のような相談窓口や支援制度を設けています。これらについてご存知ですか。それぞれの項目について1つを選んで✓をつけてください。

◆相続や売買など空き家全般の相談に応じる、伊勢崎市無料空き家相談会	<input type="checkbox"/> 知っており、利用する予定がある	<input type="checkbox"/> 知っているが、利用する予定はない
	<input type="checkbox"/> 知らないが、興味関心がある	<input type="checkbox"/> 知らないし、興味関心もない
	<input type="checkbox"/> 既に利用した	
◆空き家を売買・賃貸借したい人のための、伊勢崎市空き家情報バンク	<input type="checkbox"/> 知っており、利用する予定がある	<input type="checkbox"/> 知っているが、利用する予定はない
	<input type="checkbox"/> 知らないが、興味関心がある	<input type="checkbox"/> 知らないし、興味関心もない
	<input type="checkbox"/> 既に利用した	
◆50歳以上の方の所有する住宅を子育て世帯などに貸し出す、群馬県空き家活用・住みかえ支援事業	<input type="checkbox"/> 知っており、利用する予定がある	<input type="checkbox"/> 知っているが、利用する予定はない
	<input type="checkbox"/> 知らないが、興味関心がある	<input type="checkbox"/> 知らないし、興味関心もない
	<input type="checkbox"/> 既に利用した	

問9 伊勢崎市では、住宅の各種リフォームに対する補助金の交付や相談会などを実施していますが、ご存知ですか。1つを選んで✓をつけてください。

<input type="checkbox"/> 知っており、利用する予定がある	<input type="checkbox"/> 知っているが、利用する予定はない
<input type="checkbox"/> 知らないが、興味関心がある	<input type="checkbox"/> 知らないし、興味関心もない
	<input type="checkbox"/> 既に利用した

↓  
問10 お住まいの住宅の構造はどちらですか。1つを選んで✓をつけてください。

<input type="checkbox"/> 木造・軽量鉄骨造	<input type="checkbox"/> 非木造(鉄筋コンクリート造など)	<input type="checkbox"/> 分からない
-----------------------------------	-------------------------------------------	--------------------------------

問11 お住まいの住宅の完成時期はいつ頃ですか。1つを選んで✓をつけてください。

<input type="checkbox"/> 昭和35年以前	<input type="checkbox"/> 昭和36~45年	<input type="checkbox"/> 昭和46~55年	<input type="checkbox"/> 昭和56~平成2年	<input type="checkbox"/> 平成3~12年
<input type="checkbox"/> 平成13~22年	<input type="checkbox"/> 平成23~令和2年	<input type="checkbox"/> 令和3年以降	<input type="checkbox"/> 分からない	

問12 住宅のローン支払いや家賃などの住居費(管理費や共益費を含む。駐車場料金は含まない)は、月当たりどのくらいですか。1つを選んで✓をつけてください。(ローンは年間を通して平均した月当たり額に換算してください。)

<input type="checkbox"/> 3万円未満	<input type="checkbox"/> 3万円~5万円	<input type="checkbox"/> 5万円~7万円	<input type="checkbox"/> 7万円~9万円
<input type="checkbox"/> 9万円~11万円	<input type="checkbox"/> 11万円~13万円	<input type="checkbox"/> 13万円~15万円	<input type="checkbox"/> 15万円以上



問13 住宅のおおむねの広さはどれですか。1つを選んで✓をつけてください。

- |                                                  |                                                  |                                                   |                                                    |
|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 25 m <sup>2</sup> 未満    | <input type="checkbox"/> 25～30 m <sup>2</sup> 未満 | <input type="checkbox"/> 30～40 m <sup>2</sup> 未満  | <input type="checkbox"/> 40～50 m <sup>2</sup> 未満   |
| <input type="checkbox"/> 50～60 m <sup>2</sup> 未満 | <input type="checkbox"/> 60～70 m <sup>2</sup> 未満 | <input type="checkbox"/> 70～100 m <sup>2</sup> 未満 | <input type="checkbox"/> 100～150 m <sup>2</sup> 未満 |
| <input type="checkbox"/> 150 m <sup>2</sup> 以上   | <input type="checkbox"/> 分からない                   |                                                   |                                                    |

問14 お住まいの住宅や住環境の満足度と重要度について、あなた(世帯主)の考えに一番近い番号を項目ごとに1つ選んで、番号に○をつけてください。

	現在の満足度				今後の重要度				
	満足	まあ満足	やや不満	不満	高い	まあ高い	やや低い	低い	
(記入例)	1	2	③	4	①	2	3	4	
住	①住居内部の広さ、部屋数	1	2	3	4	1	2	3	4
	②台所や風呂等の水廻り設備	1	2	3	4	1	2	3	4
	③地震に対する安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
	④壁や窓の遮音性や断熱性	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑤日当たりや風通し	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑥段差や手すりなどのバリアフリー性	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑦駐車スペース(車、オートバイ、自転車)	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑧敷地(住宅の敷地の広さ、住棟まわりの広さ)	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑨建物の老朽化・美観	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑩在宅勤務等に適した設備・間取り	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑪住宅の総合評価	1	2	3	4	1	2	3	4
まわりの住環境	①食料品など日常的な買い物などの便利さ	1	2	3	4	1	2	3	4
	②通勤・通学の利便性	1	2	3	4	1	2	3	4
	③医療・福祉・子育てサービスの便利さ	1	2	3	4	1	2	3	4
	④文化・スポーツ施設の便利さ	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑤公共交通の便利さ	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑥公園・広場・遊び場などの充実度	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑦防犯・治安	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑧地震・火災・水害に対する安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑨騒音・振動	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑩周辺の道路状況・安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑪住宅の密集度合い	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑫周辺の街並み景観	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑬近隣住民とのつきあい	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑭人と出会う・交流できる施設・店舗	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑮まわりの住環境の総合評価	1	2	3	4	1	2	3	4



## 6. 子育てしやすい住宅・住環境についておたずねします。

問20 あなたが現在の住宅で子育てをする上で、住宅や住環境について問題だと感じることは何ですか。  
(子どもがいない方は、自分に子どもがいるものとしてお答えください) あてはまるものを3つまで選び✓をつけてください。

- |                                       |                                      |                                           |
|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 住宅の広さや間取り    | <input type="checkbox"/> 遮音性能などの住宅性能 | <input type="checkbox"/> 住居費(購入費や家賃など)の負担 |
| <input type="checkbox"/> 親の通勤・子の通学が不便 | <input type="checkbox"/> 通院・買い物等が不便  | <input type="checkbox"/> 周囲に遊び場などが少ない     |
| <input type="checkbox"/> 周囲の治安        | <input type="checkbox"/> 周囲の交通の安全性   | <input type="checkbox"/> 周囲に同年代の子供がいない    |
| <input type="checkbox"/> 近隣住民とのつきあい   | <input type="checkbox"/> その他( )      | <input type="checkbox"/> 特に不満はない          |

## 7. 生活に困窮する方のための住まいの支援制度についておたずねします。

問21 伊勢崎市では、離職などにより経済的に困窮している人に対し、一定期間、家賃相当額を支援しています。この制度についてご存知ですか。1つを選んで✓をつけてください。

- |                                  |                                            |                               |
|----------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> よく知っている | <input type="checkbox"/> 聞いたことがあるが、詳しく知らない | <input type="checkbox"/> 知らない |
|----------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------|

問22 群馬県では、住宅確保要配慮者(低所得者、被災者、高齢者、障害者、子育て世帯、外国人など)が入居できる賃貸住宅を案内する仕組みがあります。この制度についてご存知ですか。1つを選んで✓をつけてください。

- |                                  |                                            |                               |
|----------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> よく知っている | <input type="checkbox"/> 聞いたことがあるが、詳しく知らない | <input type="checkbox"/> 知らない |
|----------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------|

## 8. 外国人住民の住宅・住環境についておたずねします。

問23 あなたの住宅の近所や、学校、職場等に、外国人の方はいますか。1つを選んで✓をつけてください。

- |                                  |                                      |                              |                                |
|----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 直接面識がある | <input type="checkbox"/> 面識はないが知っている | <input type="checkbox"/> いない | <input type="checkbox"/> 分からない |
|----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|--------------------------------|

問24 日本人住民と外国人住民が同じ伊勢崎市の中で快適に生活するために、住生活に関してどのような支援が不足していると思いますか。あてはまるものすべてに✓をつけてください。

- |                                                          |                                           |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 外国語による住宅情報の提供                   | <input type="checkbox"/> 外国語による生活ルールの情報提供 |
| <input type="checkbox"/> お互いの習慣や文化を理解する機会の増加             | <input type="checkbox"/> 生活マナーの共有         |
| <input type="checkbox"/> 言語の違いを超えてコミュニケーションができるようなツールの提供 |                                           |
| <input type="checkbox"/> その他( )                          |                                           |

問25 その他、ご意見・ご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

## 2. 単純集計の結果

### 2.1. 回答者の属性

#### 2.1.1. 世帯主について（問1）

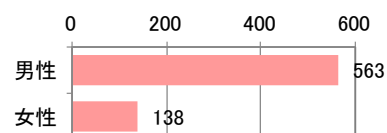
##### (1) 性別

回答者の性別は、男性が約80%と多くなっている。

図表 性別

選択肢	回答数	割合
男性	563	80.3%
女性	138	19.7%
回答者数	701	100.0%

(SA)



##### (2) 年齢

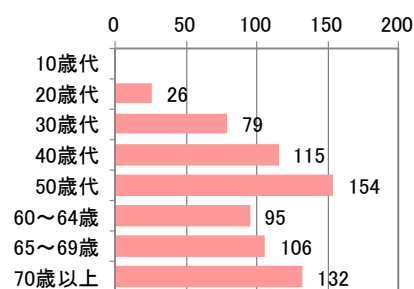
回答者の年齢は、60歳代（60～64歳と65～69歳の割合の合計）が約28%と他の年代に比べて特に多い。次いで50歳代が約22%、70歳以上が約19%である。

65～69歳と70歳以上の割合の合計は約34%であり、約3割が高齢者の回答である。また、10歳代からの回答は得られていない。

図表 年齢

選択肢	回答数	割合
10歳代	0	0.0%
20歳代	26	3.7%
30歳代	79	11.2%
40歳代	115	16.3%
50歳代	154	21.8%
60～64歳	95	13.4%
65～69歳	106	15.0%
70歳以上	132	18.7%
回答者数	707	100.0%

(SA)



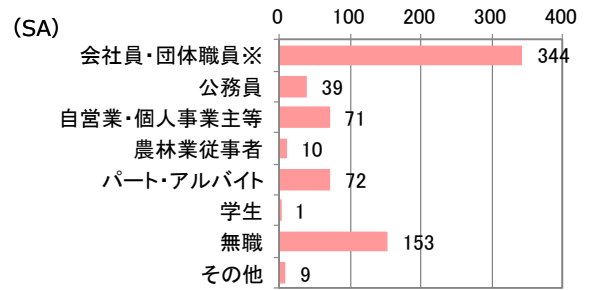
(3) 職業

回答者の職業は、「会社員・団体職員」が約49%と高く、次いで「無職」が約22%、次いで「パート・アルバイト」が約10%である。

図表 職業

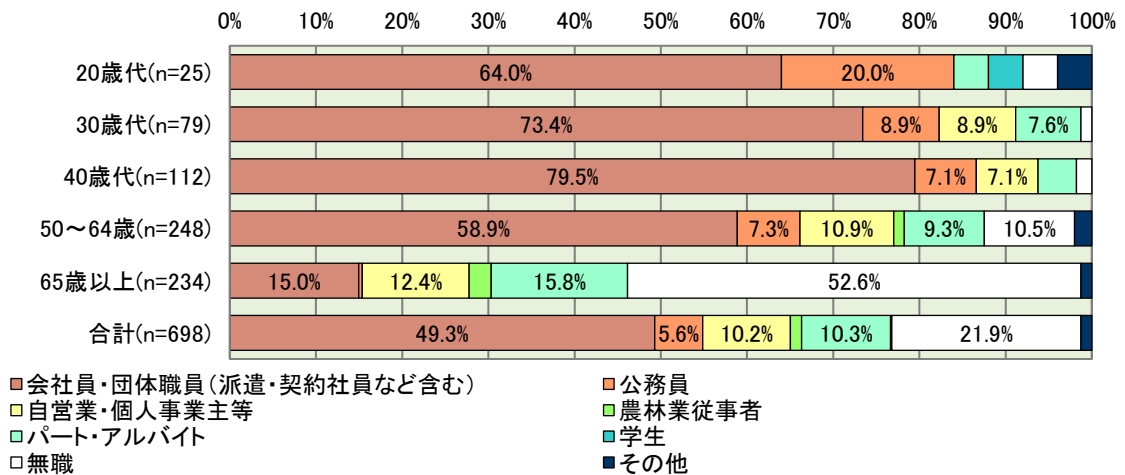
選択肢	回答数	割合
会社員・団体職員※	344	49.2%
公務員	39	5.6%
自営業・個人事業主等	71	10.2%
農林業従事者	10	1.4%
パート・アルバイト	72	10.3%
学生	1	0.1%
無職	153	21.9%
その他	9	1.3%
回答者数	699	100.0%

※派遣・契約社員など含む



年齢別に見ると、65歳以上の高齢者の約53%が「無職」と回答しており、その他の年齢層では「会社員・団体職員」が最も多い。

図 職業（年齢別）



## 2.1.2. 世帯について（問2）

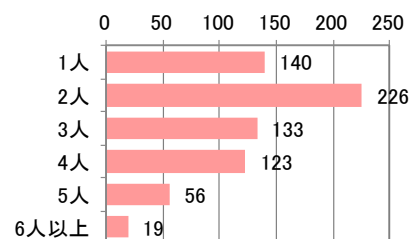
### (1) 世帯の人数（世帯主を含む）

世帯の人数は、2人世帯が最も多く約32%、次いで1人世帯が約20%、次いで3人世帯が約19%と続いている。

図表 世帯の人数

選択肢	回答数	割合
1人	140	20.1%
2人	226	32.4%
3人	133	19.1%
4人	123	17.6%
5人	56	8.0%
6人以上	19	2.7%
回答者数	697	100.0%

(SA)



※「1人」と答えた人のうち、問2の5つ目の設問（世帯構成）で「単身世帯」以外を答えた人は、回答が矛盾するため集計から除いている。

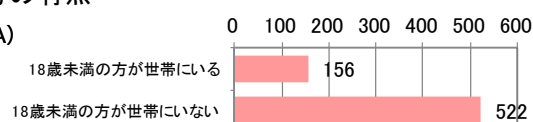
### (2) 子育て世帯（18歳未満の方の有無）

18歳未満の方が世帯にいる割合は、全体の約23%である。

図表 18歳未満の方の有無

選択肢	回答数	割合
18歳未満の方が世帯にいる	156	23.0%
18歳未満の方が世帯にいない	522	77.0%
回答者数	678	100.0%

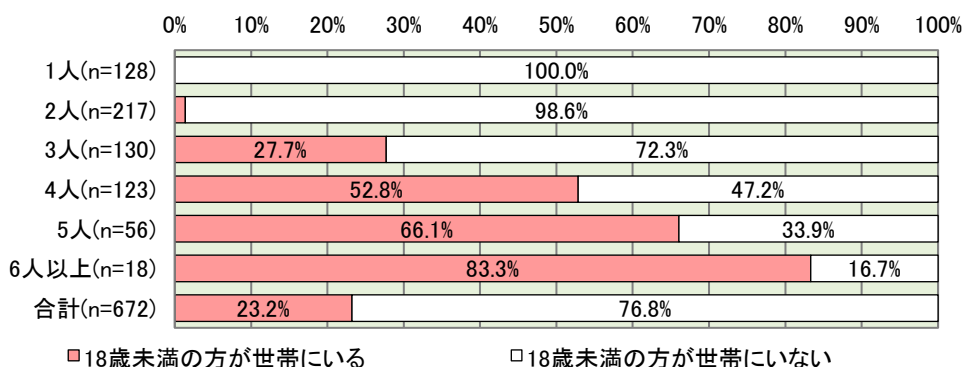
(SA)



※問2で世帯の人数を「1人」と回答している場合は、この設問の回答結果に拘わらず、「18歳未満の方が世帯にいない」に含めるように集計した（調査対象は18歳以上に限られるため）。同様に、問2で世帯の構成を「単身世帯」と回答している場合は、この設問の回答結果に拘わらず、「18歳未満の方が世帯にいない」に含めるように集計した。

世帯人員別に見ると、子育て世帯は基本的に3人以上の世帯の場合に該当する。特に4人以上の世帯は過半数が子育て世帯である。

図 18歳未満の方の有無（世帯人員別）



■ 18歳未満の方が世帯にいる

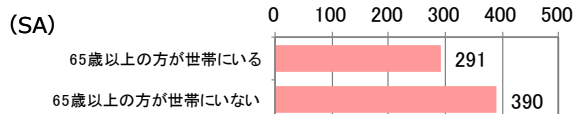
□ 18歳未満の方が世帯にいない

(3) 高齢者を含む世帯（65歳以上の方の有無）

65歳以上の方が世帯にいる割合は、全体の約43%である。

図表 65歳以上の方の有無

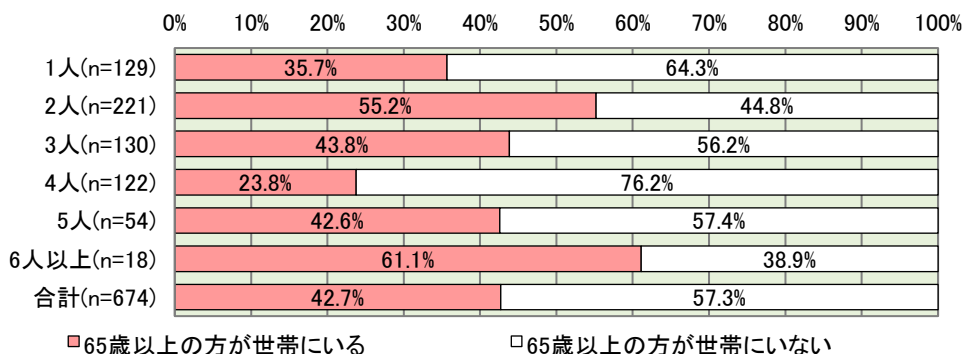
選択肢	回答数	割合
65歳以上の方が世帯にいる	291	42.7%
65歳以上の方が世帯にいない	390	57.3%
回答者数	681	100.0%



※問1で回答者自身の年齢を「65～70歳」または「70歳以上」と回答している場合は、この設問の回答結果に拘わらず、「65歳以上の方が世帯にいる」に含めるように集計した。

世帯人員別に見ると、高齢者を含む世帯はどの規模の世帯でも約2割～約6割が該当する。単身世帯のうち、自身が高齢者の世帯は約36%である。

図 65歳以上の方の有無（世帯人員別）



(4) 昨年1年間の世帯収入

世帯収入は200万円未満が最も多く約18%、次いで200～300万円が約17%、次いで300～400万円と400～500万円が多くどちらも約13%である。500万円未満の世帯は、全体の約61%を占める。

年収別の職業を見ると、200万円未満の世帯のうち約53%は「無職」であり、約27%は「パート・アルバイト」である。また、世帯年収が上がるほど「会社員・団体職員」の占める割合が多くなる傾向が見られる。

図表 昨年1年間の世帯収入

選択肢	回答数	割合
200万円未満	122	17.6%
200～300万円	115	16.6%
300～400万円	92	13.3%
400～500万円	91	13.1%
500～600万円	81	11.7%
600～800万円	88	12.7%
800～1,000万円	64	9.2%
1,000万円以上	40	5.8%
回答者数	693	100.0%

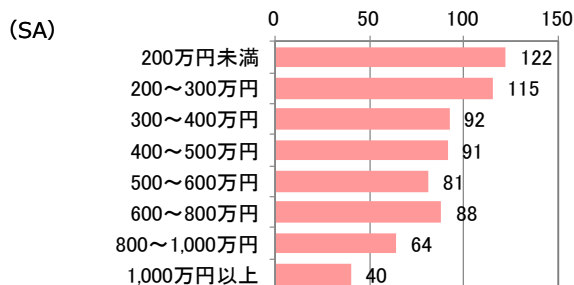
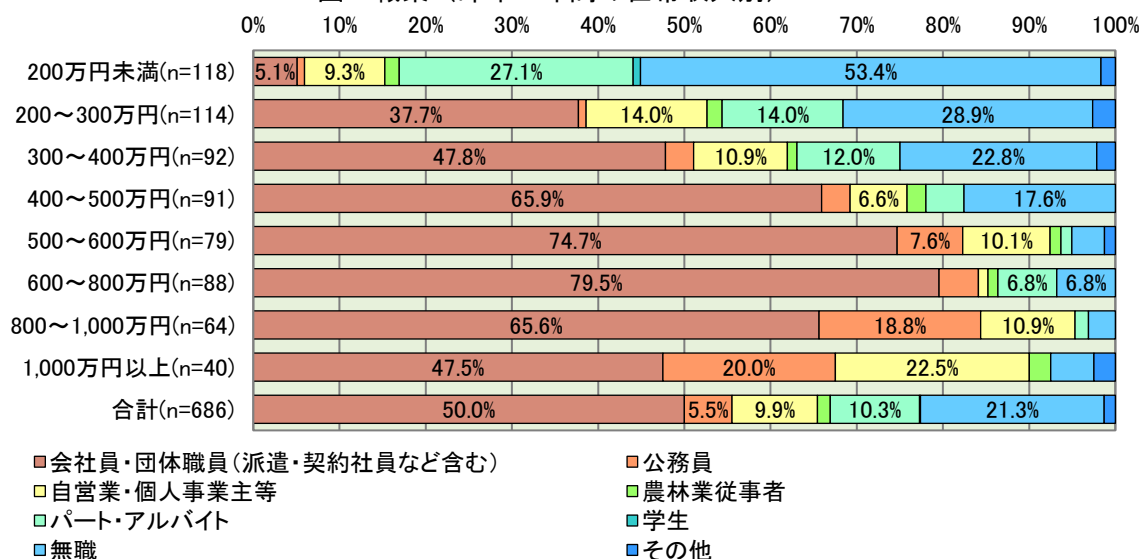


図 職業（昨年1年間の世帯収入別）



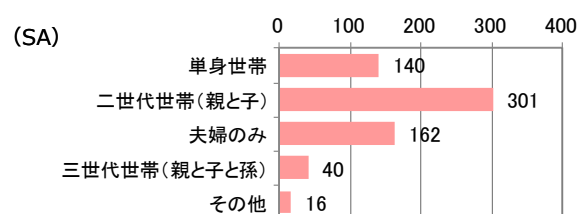
(5) 世帯の構成

世帯の構成は「二世帯世帯（親と子）」が最も多く約46%、次いで「夫婦のみ」が多く約25%、次いで「単身世帯」が多く約21%である。

なお、世帯の構成別に18歳未満の方の有無を見ると、二世帯世帯のうち子育て世帯は約4割、三世帯世帯のうち子育て世帯は約6割である。

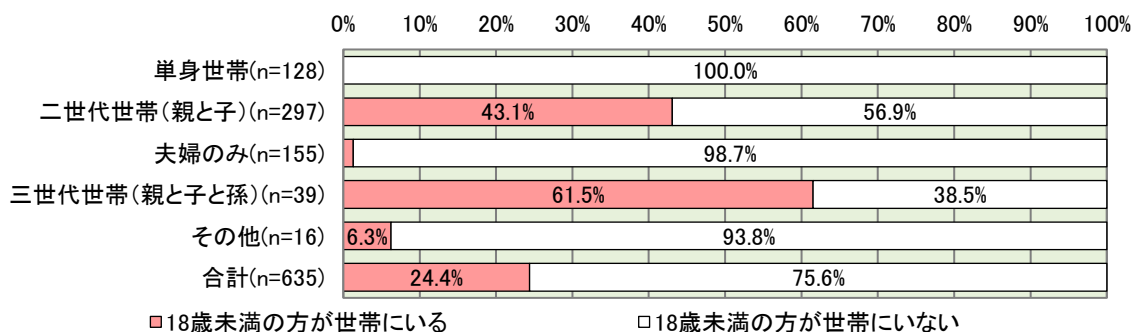
図表 世帯の構成

選択肢	回答数	割合
単身世帯	140	21.2%
二世帯世帯(親と子)	301	45.7%
夫婦のみ	162	24.6%
三世帯世帯(親と子と孫)	40	6.1%
その他	16	2.4%
回答者数	659	100.0%



※「単身世帯」と答えた人のうち、問2の1つ目の設問（世帯人数）で「1人」以外を答えた人は、回答が矛盾するため集計から除いている。

図 18歳未満の方の有無（世帯構成別）

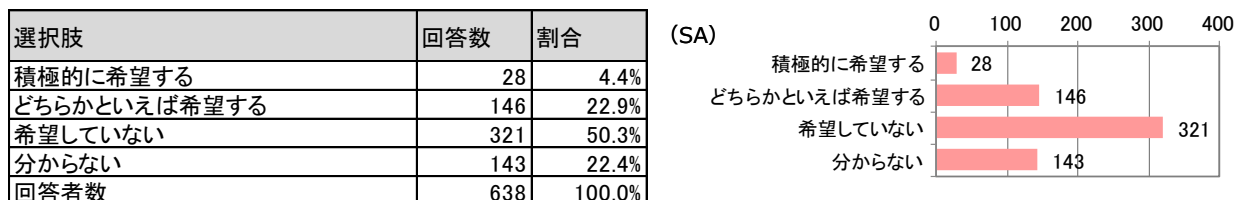




### 2.1.3. 離れて暮らす親や子との同居に関する意向（問3）

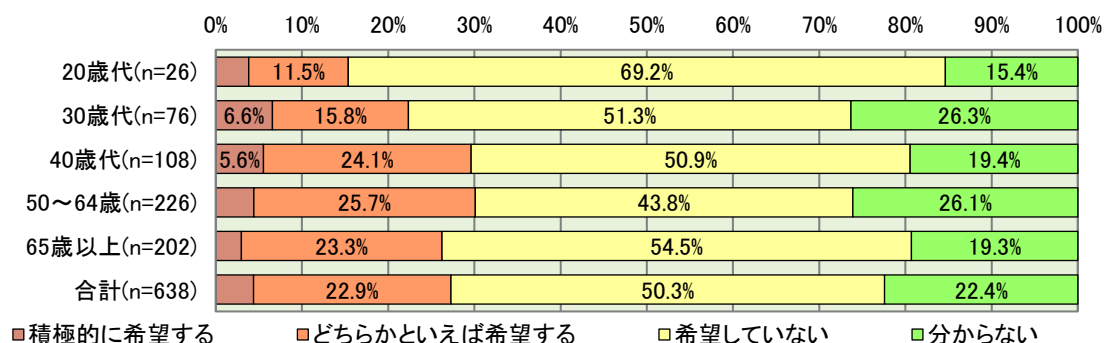
問2で「三世帯世帯」以外と答えた方を対象に、離れて暮らす親や子との同居に関する意向を訊ねたところ、「希望していない」が約50%と最も多く、次いで「どちらかといえば希望する」が約23%、「分からない」が約22%であった。

図表 離れて暮らす親や子との同居に関する意向



回答者の年齢別に見ると、20歳代は「希望していない」の割合が高く約69%、40歳代以降は「積極的に希望する」と「どちらかといえば希望する」の合計割合が約2割～約3割と比較的多くなっている。

図 離れて暮らす親や子との同居に関する意向（年齢別）



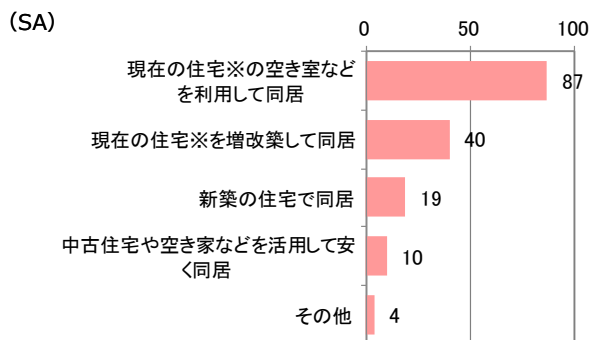
#### 2.1.4. 希望する同居形態（問4）

問3で「積極的に希望する」と「どちらかといえば希望する」を選んだ方を対象に、希望する同居形態を訊ねたところ、「現在の住宅の空き室などを利用して同居」が最も多く約54%、次いで「現在の住宅を増改築して同居」が多く約25%であった。

図表 希望する同居形態

選択肢	回答数	割合
現在の住宅※の空き室などを利用して同居	87	54.4%
現在の住宅※を増改築して同居	40	25.0%
新築の住宅で同居	19	11.9%
中古住宅や空き家などを活用して安く同居	10	6.3%
その他	4	2.5%
回答者数	160	100.0%

※あなたの住んでいる住宅や、親または子の住宅

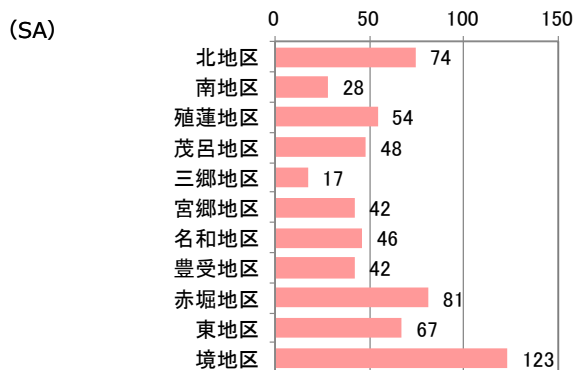


#### 2.1.5. 居住地域（問5）

回答者の居住地域を見ると、旧伊勢崎市内（北地区～豊受地区）の合計割合が約57%、赤堀地区が約13%、東地区が約11%、境地区が約20%であった。

図表 居住地域

選択肢	回答数	割合
北地区	74	11.9%
南地区	28	4.5%
殖蓮地区	54	8.7%
茂呂地区	48	7.7%
三郷地区	17	2.7%
宮郷地区	42	6.8%
名和地区	46	7.4%
豊受地区	42	6.8%
赤堀地区	81	13.0%
東地区	67	10.8%
境地区	123	19.8%
回答者数	622	100.0%



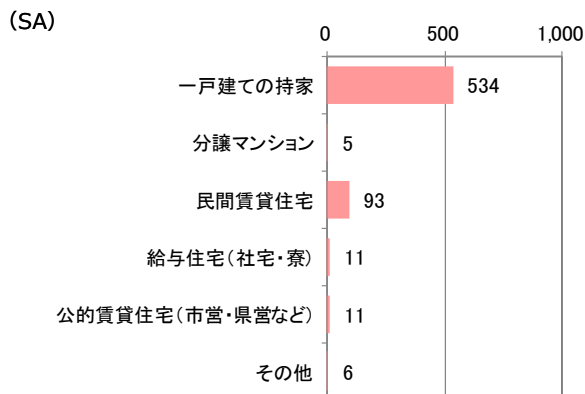
## 2.2. 現在の住宅や住環境の状況

### 2.2.1. 住宅の種類（問6）

回答者の住宅の種類を見ると、一戸建ての持家が最も多く約81%、次いで民間賃貸住宅が多く約14%であった。

図表 住宅の種類

選択肢	回答数	割合
一戸建ての持家	534	80.9%
分譲マンション	5	0.8%
民間賃貸住宅	93	14.1%
給与住宅(社宅・寮)	11	1.7%
公的賃貸住宅(市営・県営など)	11	1.7%
その他	6	0.9%
回答者数	660	100.0%

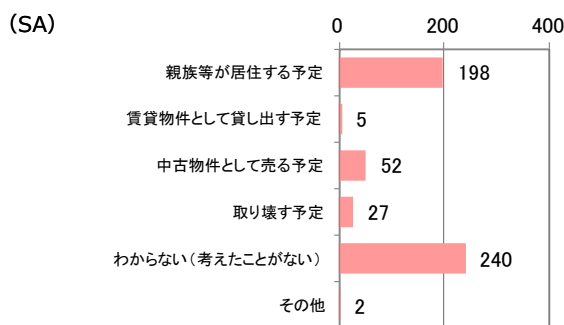


### 2.2.2. 住まなくなった後の想定（問7）

問6で「一戸建ての持家」を選んだ方を対象に、現在の住宅に住まなくなった後の使われ方を訊ねたところ、「わからない(考えたことがない)」が最も多く約46%、次いで「親族等が居住する予定」が多く約38%であった。

図表 住まなくなった後の想定

選択肢	回答数	割合
親族等が居住する予定	198	37.8%
賃貸物件として貸し出す予定	5	1.0%
中古物件として売る予定	52	9.9%
取り壊す予定	27	5.2%
わからない(考えたことがない)	240	45.8%
その他	2	0.4%
回答者数	524	100.0%



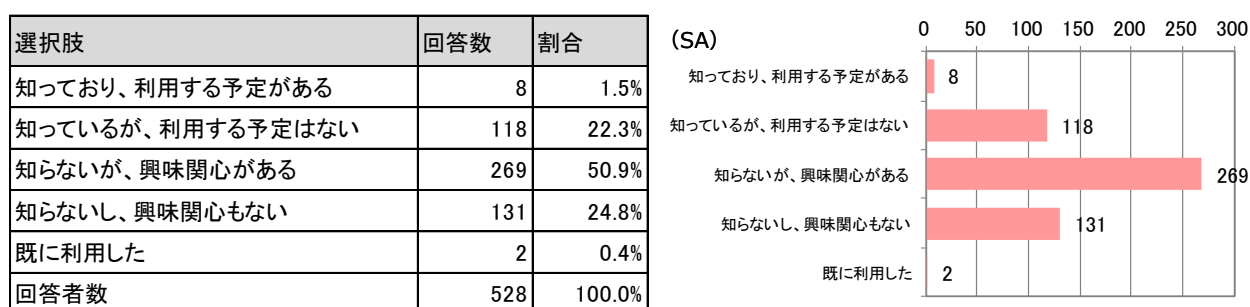
## 2.2.3. 空家の未然防止策の認知度（問8）

### (1) 伊勢崎市無料空き家相談会

問6で「一戸建ての持家」を選んだ方を対象に、伊勢崎市無料空き家相談会の認知度を訊ねたところ、「知らないが、興味関心がある」が最も多く約51%、次いで「知らないし、興味関心もない」が多く約25%であった。

現在の認知度として「知っており、利用する予定がある」と「知っているが、利用する予定はない」の合計割合を見ると、全体の約24%である。一戸建て持家の世帯主の約2割にしか同制度が知られていないが、興味関心は高いことが窺える。

図表 伊勢崎市無料空き家相談会の認知度

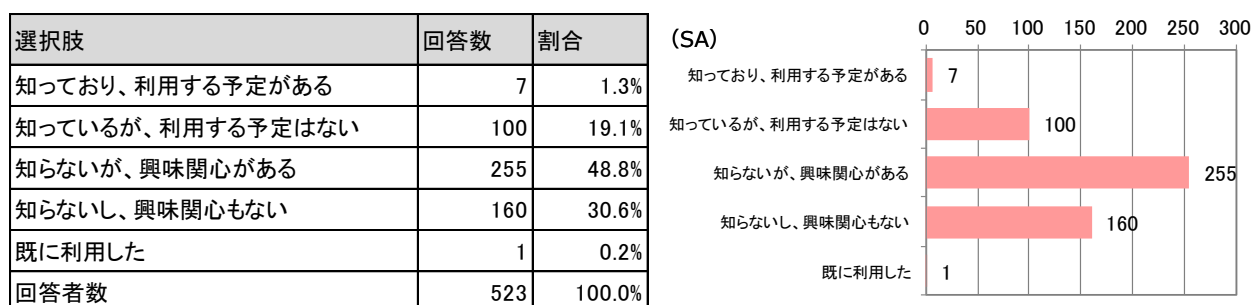


### (2) 伊勢崎市空き家情報バンク

問6で「一戸建ての持家」を選んだ方を対象に、伊勢崎市空き家情報バンクの認知度を訊ねたところ、「知らないが、興味関心がある」が最も多く約49%、次いで「知らないし、興味関心もない」が多く約31%であった。

現在の認知度として「知っており、利用する予定がある」と「知っているが、利用する予定はない」の合計割合を見ると、全体の約20%である。前述の無料相談会に関する設問と同様に、現在の認知度は一戸建て持家の世帯主の約2割と低いが、興味関心は高いことが窺える。

図表 伊勢崎市空き家情報バンクの認知度

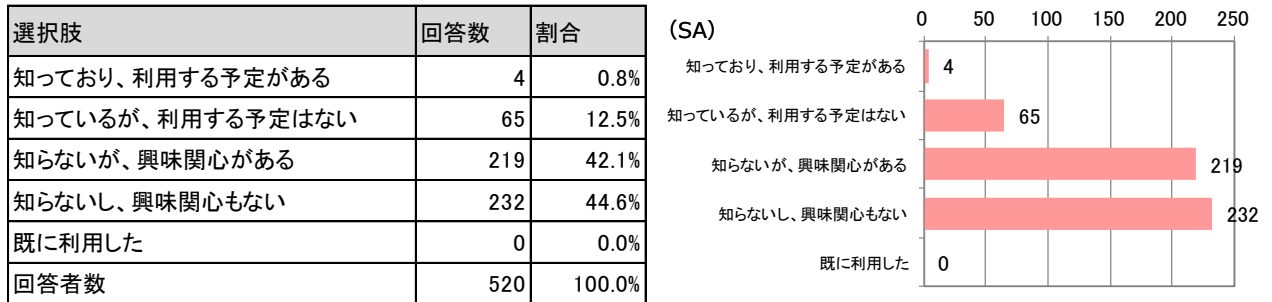


(3) 群馬県空き家活用・住みかえ支援事業

問6で「一戸建ての持家」を選んだ方を対象に、群馬県空き家活用・住みかえ支援事業の認知度を訊ねたところ、「知らないし、興味関心もない」が最も多く約45%、次いで「知らないが、興味関心がある」が多く約42%であった。

現在の認知度として「知っており、利用する予定がある」と「知っているが、利用する予定はない」の合計割合を見ると、全体の約13%である。前述の無料相談会や空き家情報バンクに比べると、現在の認知度や興味関心を持つ人の割合はやや低い。

図表 群馬県空き家活用・住みかえ支援事業の認知度

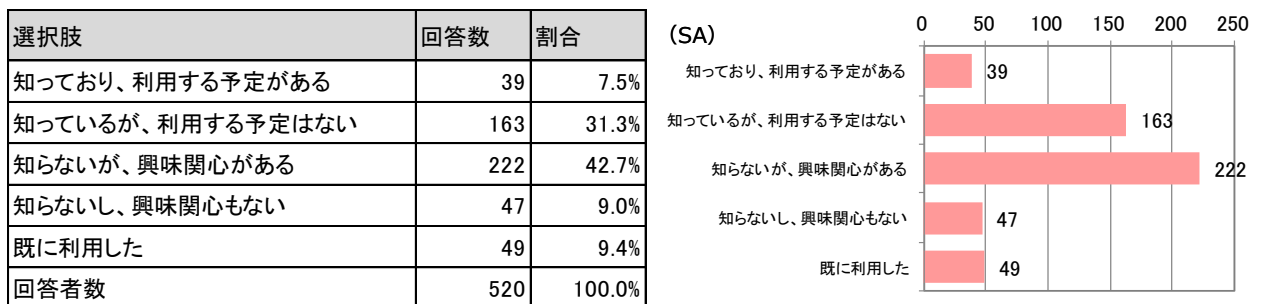


2.2.4. リフォーム支援の認知度（問9）

問6で「一戸建ての持家」を選んだ方を対象に、群馬県空き家活用・住みかえ支援事業の認知度を訊ねたところ、「知らないが、興味関心がある」が最も多く約43%、次いで「知っているが、利用する予定はない」が多く約31%であった。

現在の認知度として「知っており、利用する予定がある」と「知っているが、利用する予定はない」の合計割合を見ると、全体の約39%である。前述の空き家未然防止施策に比べると、現在の認知度はやや高い。

図表 リフォーム支援の認知度

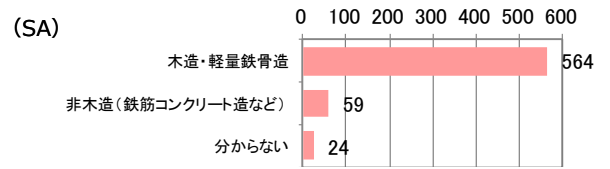


### 2.2.5. 住宅の構造（問10）

現在の住宅の構造は、「木造・軽量鉄骨造」が最も多く約87%、次いで「非木造（鉄筋コンクリート造など）」が多く約9%であった。

図表 住宅の構造

選択肢	回答数	割合
木造・軽量鉄骨造	564	87.2%
非木造（鉄筋コンクリート造など）	59	9.1%
分からない	24	3.7%
回答者数	647	100.0%

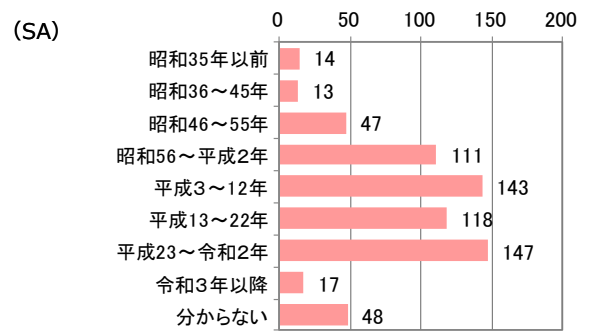


### 2.2.6. 住宅の完成時期（問11）

現在の住宅の完成時期は、「平成23～令和2年」が最も多く約22%、次いで「平成3～12年」が多く約22%、次いで「平成13～22年」が多く約18%であった。旧耐震基準が適用された昭和55年以前の合計割合は全体の約11%である。

図表 住宅の完成時期

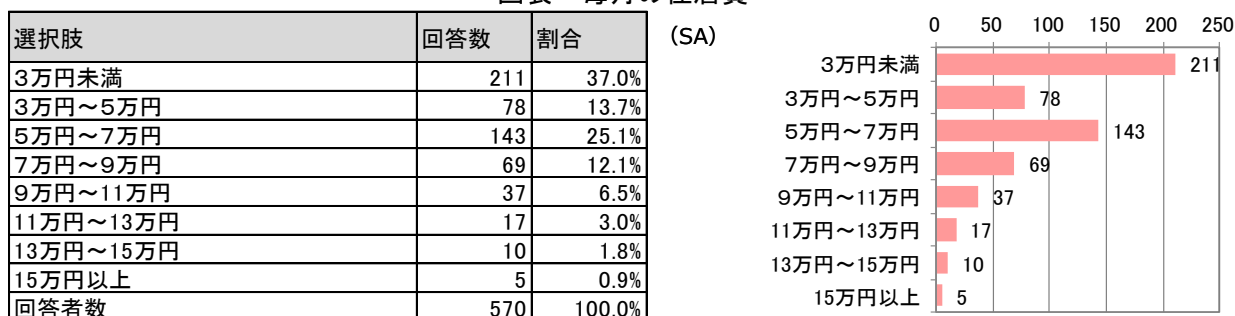
選択肢	回答数	割合
昭和35年以前	14	2.1%
昭和36～45年	13	2.0%
昭和46～55年	47	7.1%
昭和56～平成2年	111	16.9%
平成3～12年	143	21.7%
平成13～22年	118	17.9%
平成23～令和2年	147	22.3%
令和3年以降	17	2.6%
分からない	48	7.3%
回答者数	658	100.0%



## 2.2.7. 毎月の住居費（問12）

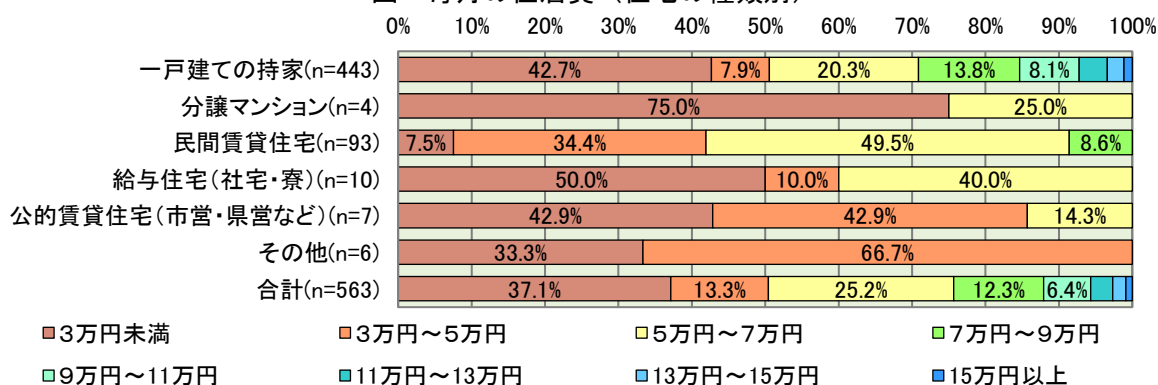
毎月の住居費は、「3万円未満」が最も多く約37%、次いで「5万円～7万円」が多く約25%、次いで「3万円～5万円」が多く約14%であった。

図表 毎月の住居費



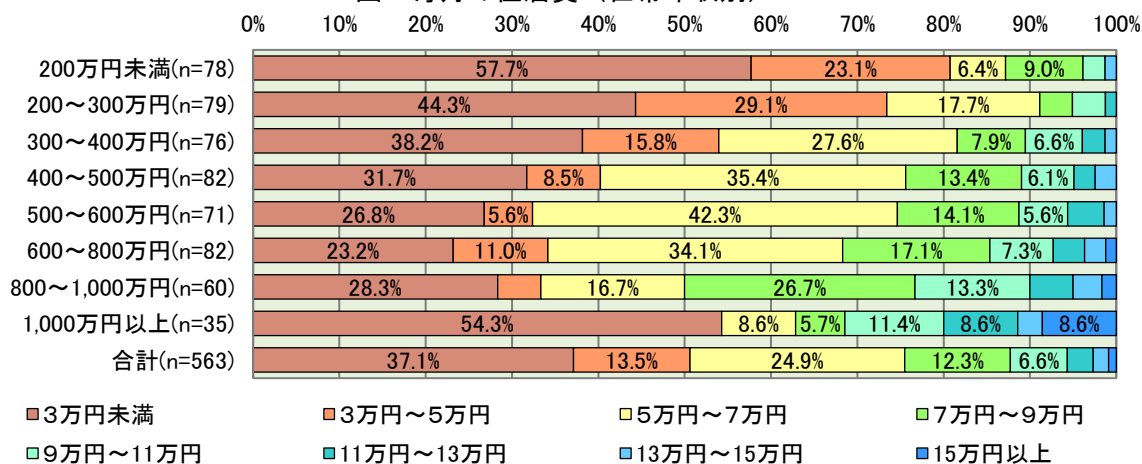
住宅の種類別に見ると、「一戸建ての持家」は「3万円未満」が最も多く約43%、民間賃貸住宅は「5万円～7万円」が多く約50%となっている。

図 毎月の住居費（住宅の種類別）



また、世帯年収別に見ると、概ね世帯年収が高い人ほど毎月の住居費が高くなる傾向が読み取れる。

図 毎月の住居費（世帯年収別）



## 2.2.8. 住居費負担度（問2と問12）

問2の世帯年収と、問12の毎月の住居費のそれぞれの回答を以下のように代表値に変換した上で、年収に占める住居費負担の割合を算出した。

10%ずつの区分で集計したところ、回答者の中で最も多いのは負担度10～20%であり、約43%であった。次いで10%未満が多く約35%、次いで20～30%が多く約13%であった。

表 問2 世帯年収の選択肢と代表値

問2 世帯年収	
選択肢	代表値
200万円未満	150万円
200～300万円	250万円
300～400万円	350万円
400～500万円	450万円
500～600万円	550万円
600～800万円	700万円
800～1,000万円	900万円
1,000万円以上	1,100万円

表 問12 毎月の住居費の選択肢と代表値

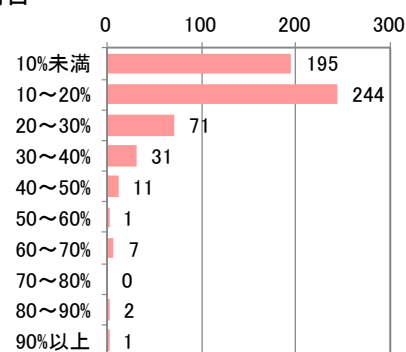
問12 毎月の住居費	
選択肢	代表値
3万円未満	1.5万円
3万円～5万円	4万円
5万円～7万円	6万円
7万円～9万円	8万円
9万円～11万円	10万円
11万円～13万円	12万円
13万円～15万円	14万円
15万円以上	16万円

※代表値の変換に際しては、最大値と最小値の幅がある選択肢は両者の中間値を取り、〇〇未満や〇〇以上の選択肢は、その前後の選択肢の最大値と中間値の差分だけ加減した値とした。ただし毎月の住居費に関しては、欄外の回答等で負担なしと記載する回答が多数見られたことから、0～3万円の中間値である1.5万円とした。

図表 年収に占める住居費負担の割合

選択肢	回答数	割合
10%未満	195	34.6%
10～20%	244	43.3%
20～30%	71	12.6%
30～40%	31	5.5%
40～50%	11	2.0%
50～60%	1	0.2%
60～70%	7	1.2%
70～80%	0	0.0%
80～90%	2	0.4%
90%以上	1	0.2%
回答者数	563	100.0%

(SA)



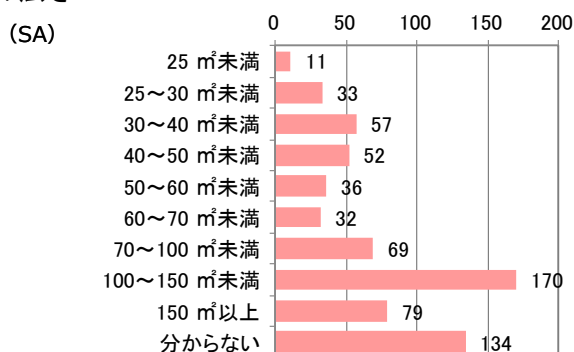


### 2.2.9. 住宅の広さ（問13）

住宅の広さは、「100～150㎡未満」が最も多く約25%、次いで「分からない」が多く約20%、次いで「150㎡以上」が多く約12%であった。

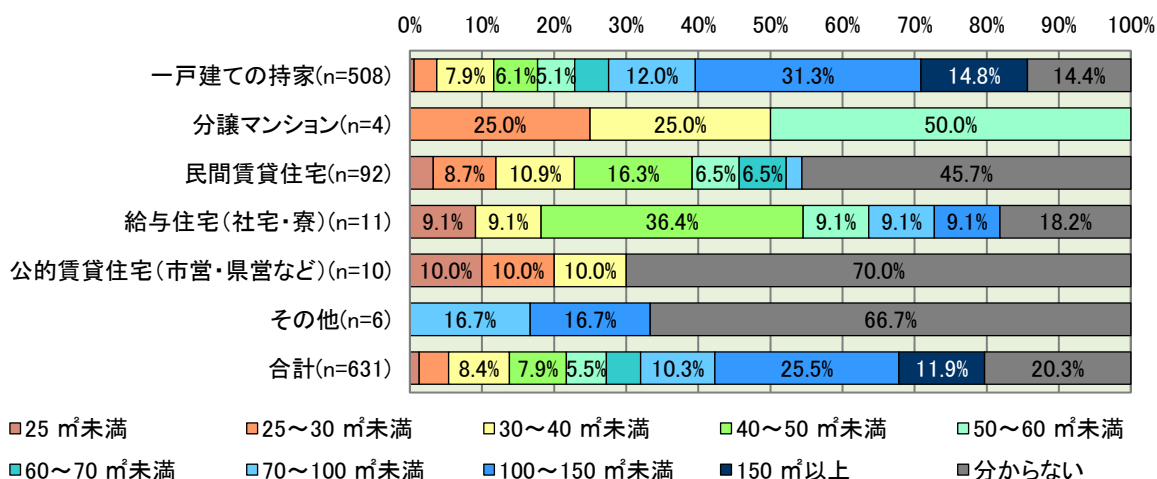
図表 住宅の広さ

選択肢	回答数	割合
25㎡未満	11	1.6%
25～30㎡未満	33	4.9%
30～40㎡未満	57	8.5%
40～50㎡未満	52	7.7%
50～60㎡未満	36	5.3%
60～70㎡未満	32	4.8%
70～100㎡未満	69	10.3%
100～150㎡未満	170	25.3%
150㎡以上	79	11.7%
分からない	134	19.9%
回答者数	673	100.0%



住宅の種類別に見ると、「一戸建ての持家」は「100～150㎡未満」が最も多く約31%である。民間賃貸住宅は「分からない」が最も多く46%、次いで「40～50㎡未満」が最も多く約16%である。

図 住宅の広さ（住宅の種類別）



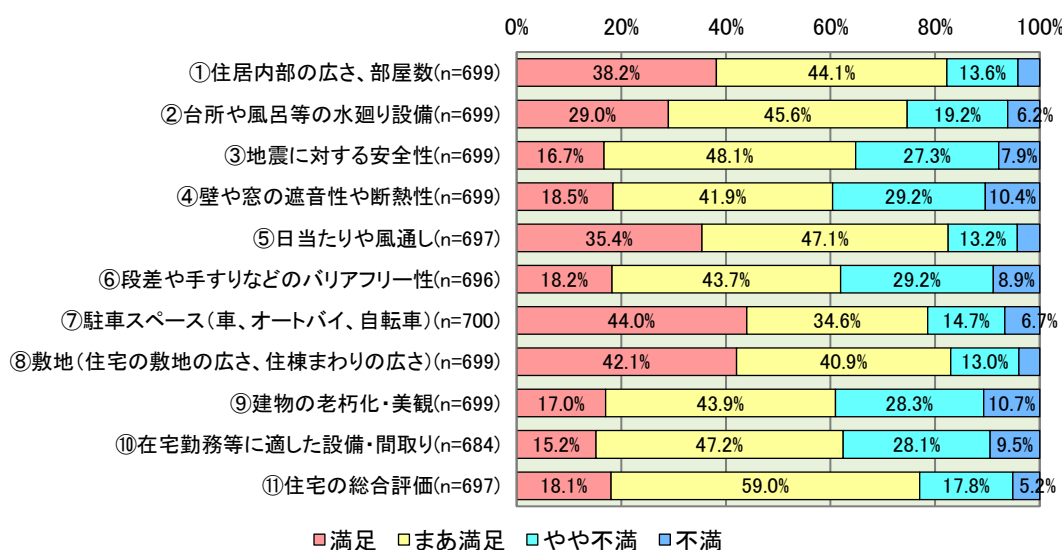
## 2.2.10. 住宅や住環境の満足度と重要度（問14）

### (1) 住宅に対する現在の満足度

住宅に対する現在の満足度を見る。「満足」と「まあ満足」の合計割合は、「⑧敷地（住宅の敷地の広さ、住棟まわりの広さ）」と「⑤日当たりや風通し」がどちらも約83%と最も高く、次いで「①住居内部の広さ、部屋数」高く約82%となっている。

反対に「やや不満」と「不満」の合計割合は、「④壁や窓の遮音性や断熱性」が最も高く約40%、次いで「⑨建物の老朽化・美観」が高く約39%、次いで「⑥段差や手すりなどのバリアフリー性」がと「⑩在宅勤務等に適した設備・間取り」が約37%と続く。

図 住宅に対する現在の満足度

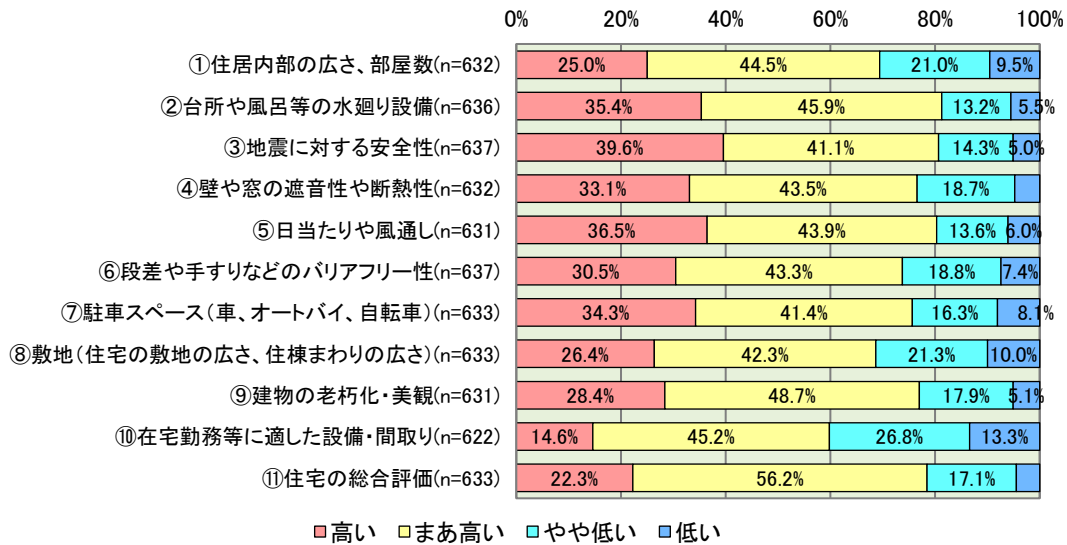


(2) 住宅に対する今後の重要度

住宅に対する今後の重要度を見る。重要度が「高い」と「まあ高い」の合計割合は、「②台所や風呂等の水廻り設備」と「③地震に対する安全性」が最も高く約81%、次いで「⑤日当たりや風通し」が高く約80%となっている。

反対に「低い」と「やや低い」の合計割合は、「⑩在宅勤務等に適した設備・間取り」が最も高く約40%、次いで「⑧敷地（住宅の敷地の広さ、住棟まわりの広さ）」が高く約31%、次いで「①住居内部の広さ、部屋数」が高く約30%である。

図 住宅に対する今後の重要度

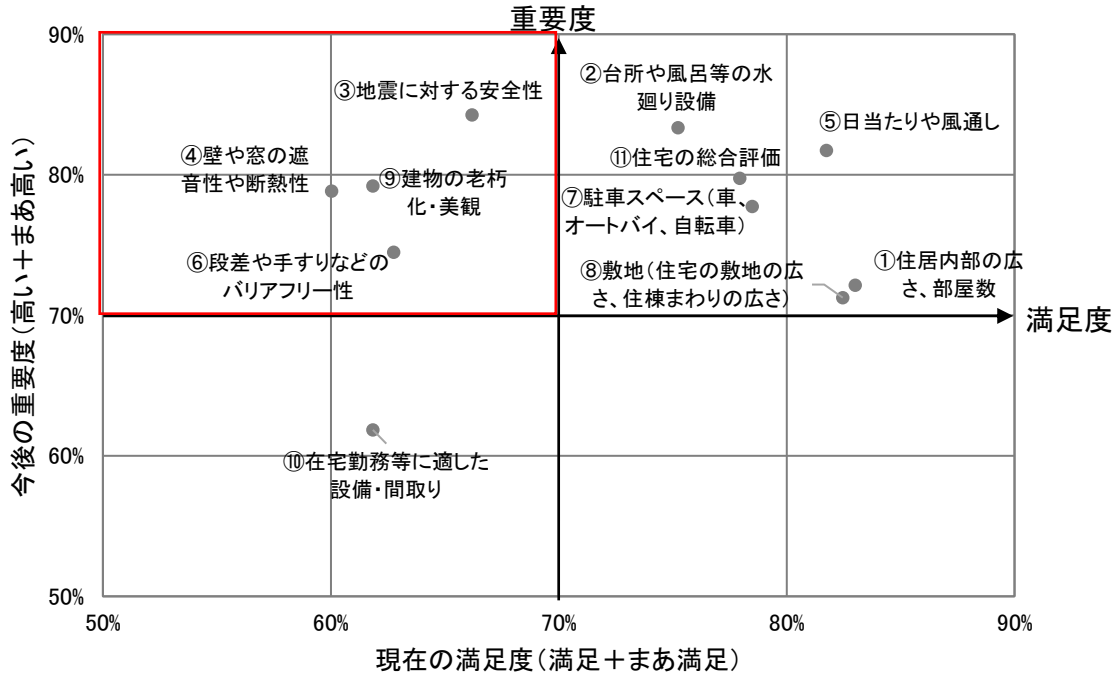


(3) 住宅に対する項目のうち特に改善が必要なもの

住宅に対する各項目を、満足度（「満足」と「まあ満足」の合計）と重要度（「高い」と「まあ高い」の合計）の両面から見る。満足度は低いが重要度が高い項目（グラフの赤枠内）は、「③地震に対する安全性」、「④壁や窓の遮音性や断熱性」、「⑥段差や手すりなどのバリアフリー性」、「⑨建物の老朽化・美観」が該当する。

なお、「⑩在宅勤務等に適した設備・間取り」は上記項目と同程度に満足度が低い、同時に重要度も低い。

図 住宅に対する項目のうち特に改善が必要なもの



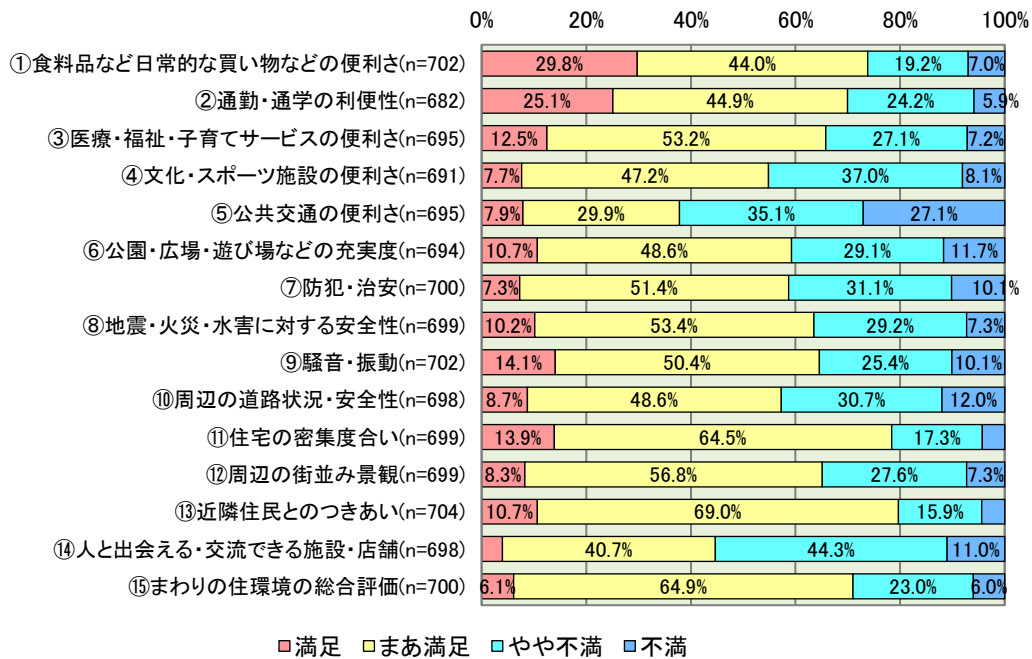
※問 14 の全ての項目に有効な回答（複数回答、無回答などでない回答）を行った回答者に限定して集計。

#### (4) 住環境に対する現在の満足度

住環境に対する現在の満足度を見る。「満足」と「まあ満足」の合計割合は、「⑬近隣住民とのつきあい」が最も高く約80%、次いで「⑪住宅の密集度合い」が高く約78%、次いで「①食料品など日常的な買い物などの便利さ」が高く約74%である。

反対に「やや不満」と「不満」の合計割合は、「⑤公共交通の便利さ」が最も高く約62%、次いで「⑭人と出会える・交流できる施設・店舗」が高く約55%、次いで「④文化・スポーツ施設の便利さ」が高く約45%である。

図 住環境に対する現在の満足度

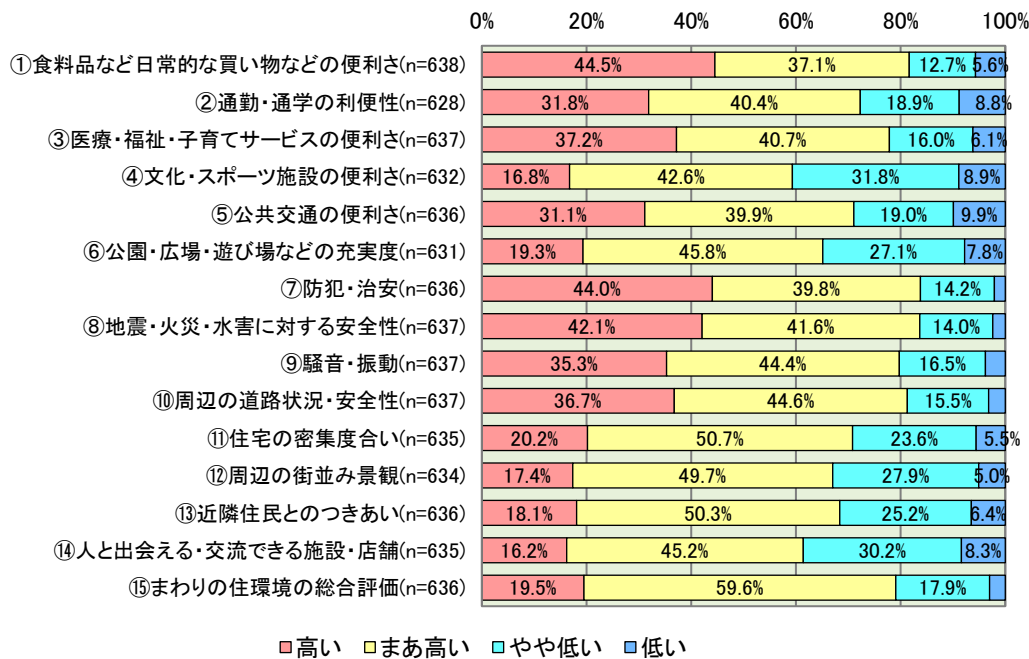


(5) 住環境に対する今後の重要度

住環境に対する今後の重要度を見る。重要度が「高い」と「まあ高い」の合計割合は、「⑦防犯・治安」と「⑧地震・火災・水害に対する安全性」が最も高くどちらも約84%、次いで「①食料品など日常的な買い物などの便利さ」が高く約82%、次いで「⑩周辺の道路状況・安全性」が約81%となっている。

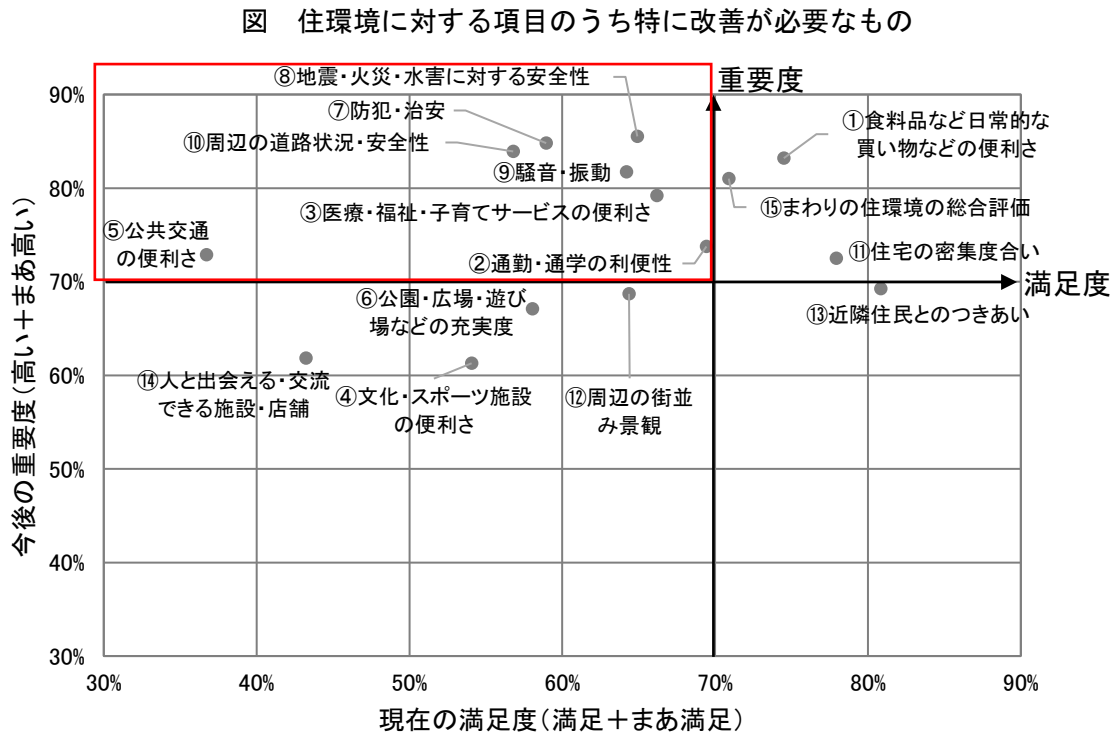
反対に「低い」と「やや低い」の合計割合は、「④文化・スポーツ施設の便利さ」が最も高く約41%、次いで「⑭人と出会える・交流できる施設・店舗」が高く約39%、次いで「⑥公園・広場・遊び場などの充実度」が高く約35%である。

図 住環境に対する今後の重要度



(6) 住環境に対する項目のうち特に改善が必要なもの

住環境に対する各項目を、満足度（「満足」と「まあ満足」の合計）と重要度（「高い」と「まあ高い」の合計）の両面から見る。満足度は低いが高重要度が高い項目（グラフの赤枠内）は、「②通勤・通学の利便性」、「③医療・福祉・子育てサービスの利便さ」、「⑤公共交通の利便さ」、「⑦防犯・治安」、「⑧地震・火災・水害に対する安全性」、「⑨騒音・振動」、「⑩周辺の道路状況・安全性」が該当する。



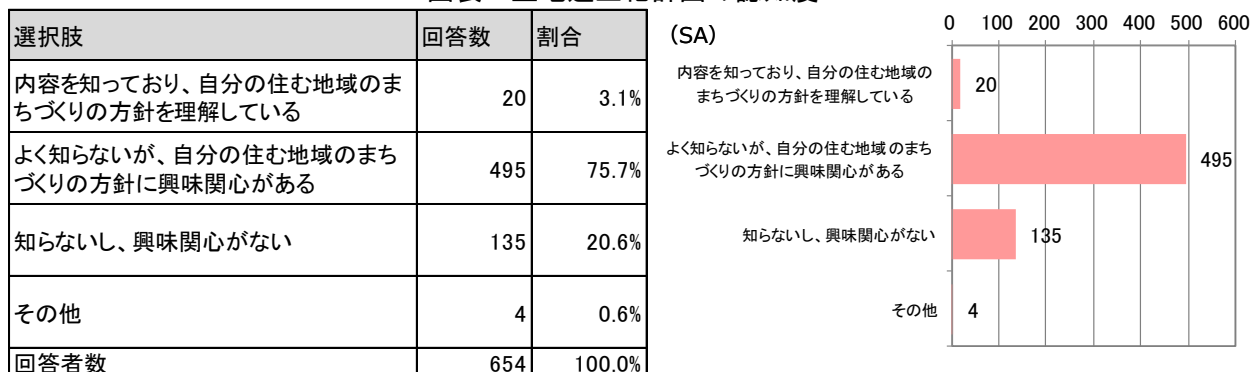
※問 14 の全ての項目に有効な回答（複数回答、無回答などでない回答）を行った回答者に限定して集計。

## 2.3. まちづくりの方針の認知度

### 2.3.1. 立地適正化計画の認知度（問15）

立地適正化計画に関する認知度を訊ねたところ、「内容を知っており、自分の住む地域のまちづくりの方針を理解している」と答えた人は全体の約3%であった。一方で、「よく知らないが、自分の住む地域のまちづくりの方針に興味関心がある」と答えた人は全体の約76%であり、まちづくりに対する興味関心の高さが窺える。

図表 立地適正化計画の認知度

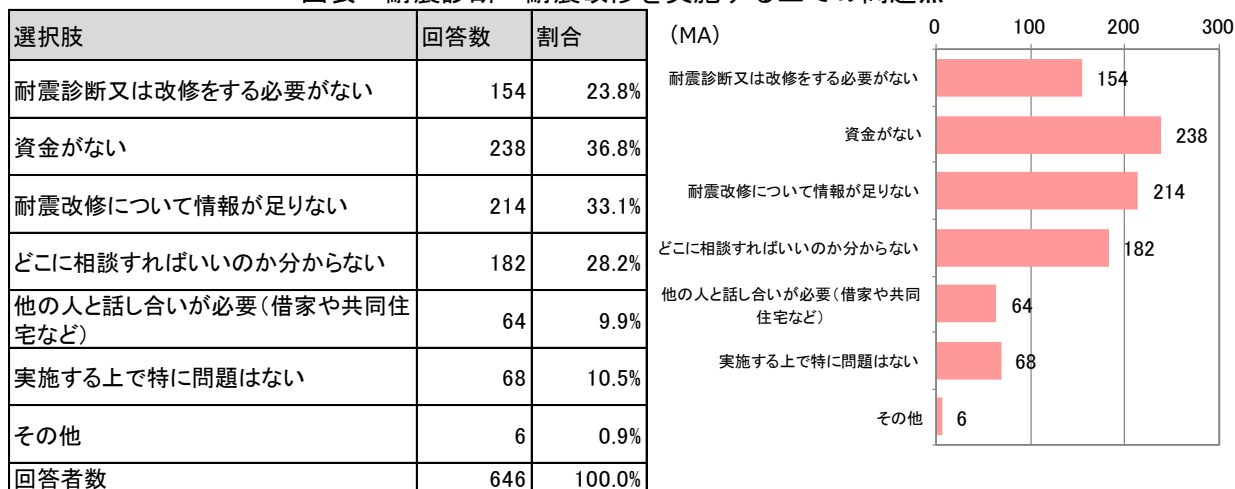


## 2.4. 地震・洪水・土砂災害などに対する備え

### 2.4.1. 耐震診断・耐震改修を実施する上での問題点（問16 あてはまるものすべて選択）

耐震診断・耐震改修を実施する上での問題点を訊ねたところ、「資金がない」と答えた人が全体の約37%と最も多く、次いで「耐震改修について情報が足りない」が約33%、次いで「どこに相談すればいいのか分からない」が約28%であった。

図表 耐震診断・耐震改修を実施する上での問題点



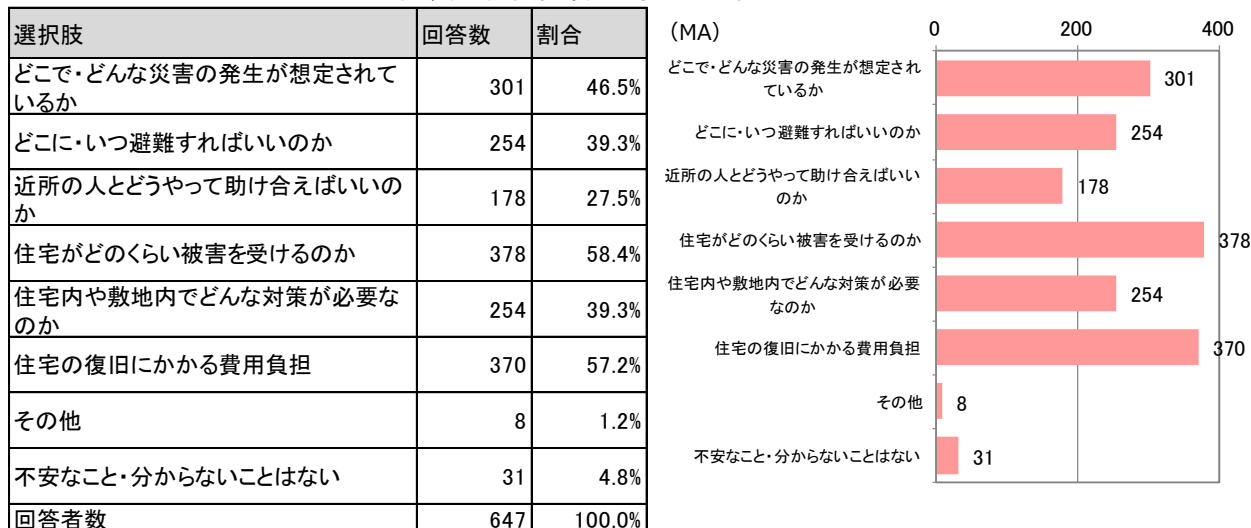
※「実施する上で特に問題はない」と答えた人のうち、他の選択肢も選んでいる人は、「実施する上で特に問題はない」に集計していない。



## 2.4.2. 自然災害に対して不安なこと（問17 あてはまるものすべて選択）

自然災害に対して不安なことを訊ねたところ、「住宅がどのくらい被害を受けるのか」が最も多く約58%、次いで「住宅の復旧にかかる費用負担」が多く約57%、次いで「どこで・どんな災害の発生が想定されるのか」が多く約47%であった。自身の住宅で想定される具体的な被害やその復旧のための費用、また災害リスク情報について関心が高いことが分かる。

図表 自然災害に対して不安なこと

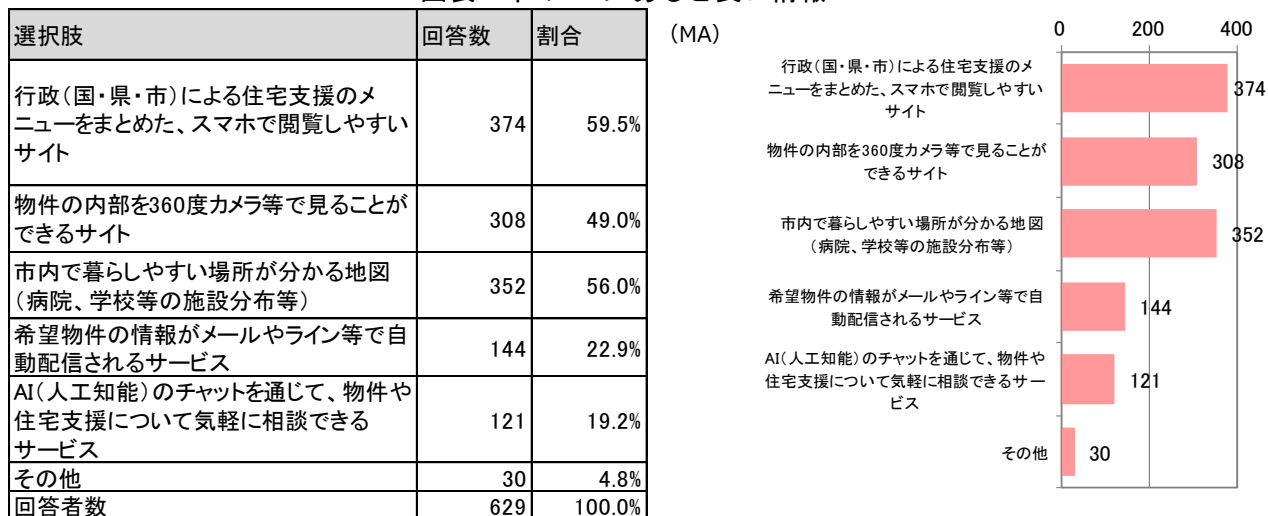


※「不安なこと・分からないことはない」と答えた人のうち、他の選択肢も選んでいる人は、「不安なこと・分からないことはない」に集計していない。

## 2.4.3. 市のHPにあると良い情報（問18 あてはまるものすべて選択）

市のHPにあると良い情報について訊ねたところ、「行政（国・県・市）による住宅支援のメニューをまとめた、スマホで閲覧しやすいサイト」が最も多く約60%、次いで「市内で暮らしやすい場所が分かる地図（病院、学校等の施設分布等）」が多く約56%、次いで「物件の内部を360度カメラ等で見る事ができるサイト」が多く約49%であった。

図表 市のHPにあると良い情報

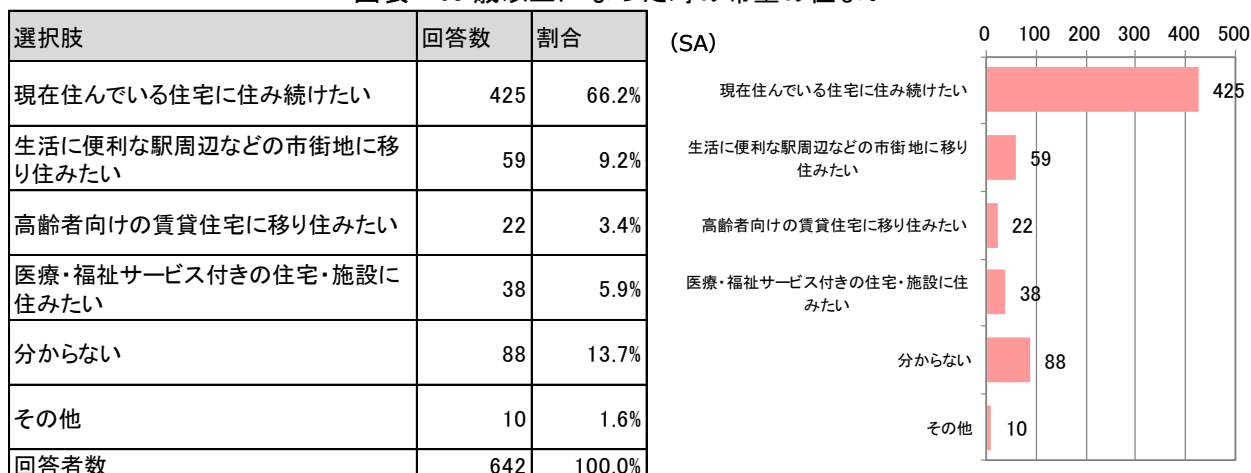


## 2.5. 65歳以上になった時の住まい

### 2.5.1. 65歳以上になった時の希望の住まい（問19）

65歳以上になった時の希望の住まいについて訊ねたところ、約66%の人が「現在住んでいる住宅に住み続けたい」と回答している。次いで「分からない」が多く約14%であった。便利な駅周辺や高齢者向けの賃貸住宅など、移住先のイメージがある人は全体の約2割である。

図表 65歳以上になった時の希望の住まい

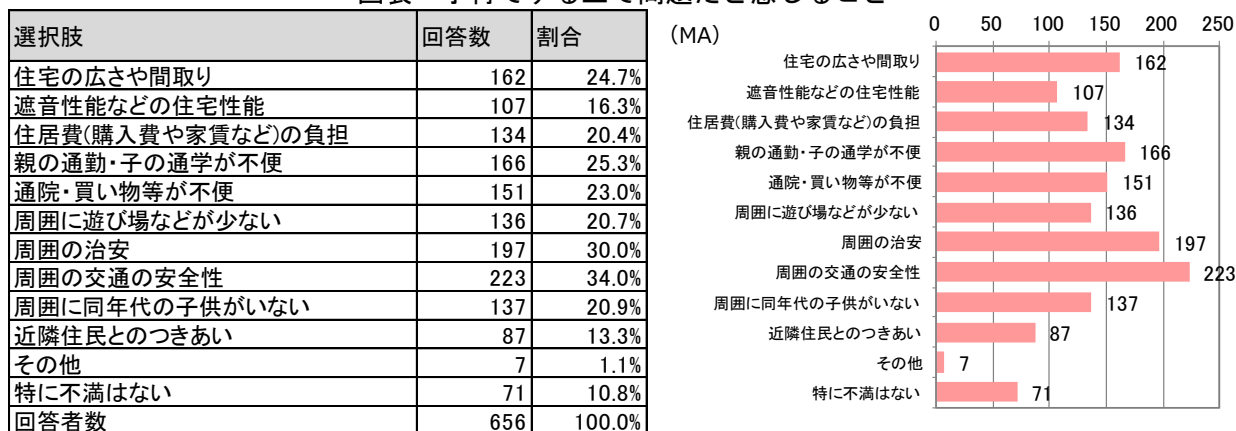


## 2.6. 子育てしやすい住宅・住環境

### 2.6.1. 子育てする上で問題だと感じること（問20 3つまで選択）

現在の住宅で子育てする上で問題だと感じることについて訊ねたところ、「周囲の交通の安全性」を挙げる人が最も多く約34%、次いで「周囲の治安」が多く約30%、次いで「親の通勤・子の通学が不便」が多く約25%であった。

図表 子育てする上で問題だと感じること



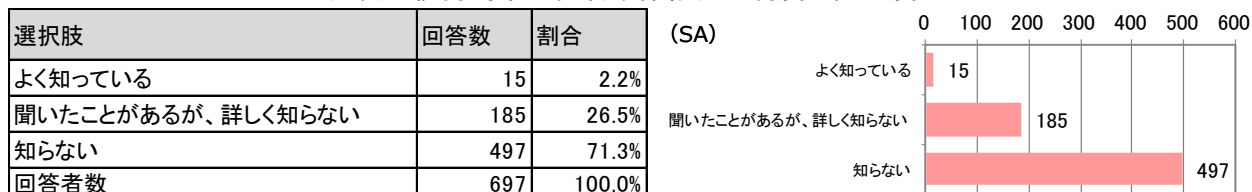
※設問の選択肢の制限を踏まえ、4つ以上回答している人は無効とした。

## 2.7. 生活困窮者への支援制度の認知度

### 2.7.1. 伊勢崎市の住居確保給付金制度（問 21）

伊勢崎市の住居確保給付金制度の認知度を訊ねたところ、「知らない」が最も多く約71%、「聞いたことがあるが、詳しく知らない」が多く約27%であった。

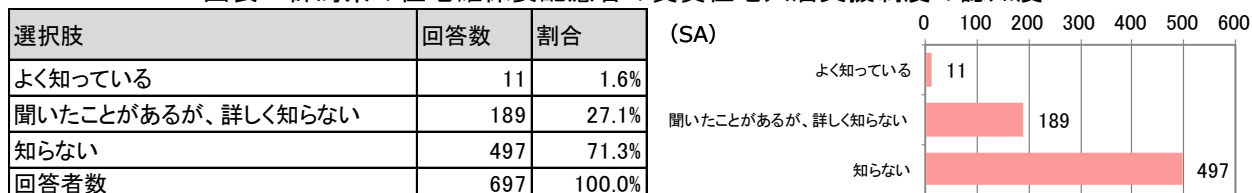
図表 伊勢崎市の住居確保給付金制度の認知度



### 2.7.2. 群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居支援制度（問 22）

群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅への入居支援制度の認知度を訊ねたところ、「知らない」が最も多く約71%、「聞いたことがあるが、詳しく知らない」が多く約27%であった。

図表 群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居支援制度の認知度



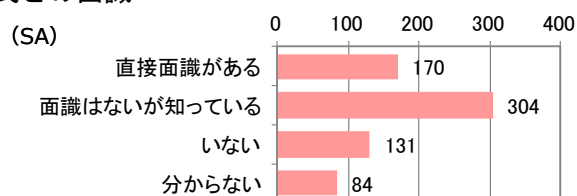
## 2.8. 外国人住民の住宅・住環境

### 2.8.1. 外国人住民との面識（問23）

近所や職場等での外国人住民との面識について訊ねたところ、「面識はないが知っている」が最も多く約44%、「直接面識がある」が多く約25%であった。全体の約7割弱が、外国人住民と同じ地域や職場等に属していることが窺える。

図表 外国人住民との面識

選択肢	回答数	割合
直接面識がある	170	24.7%
面識はないが知っている	304	44.1%
いない	131	19.0%
分からない	84	12.2%
回答者数	689	100.0%

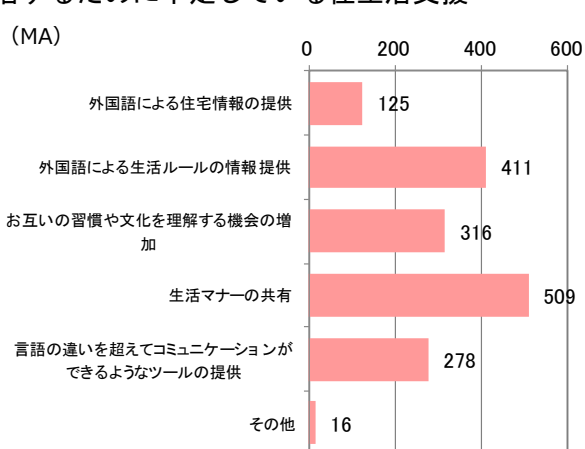


### 2.8.2. 日本人住民と外国人住民が快適に生活するために不足している住生活支援（問24 あてはまるものすべて選択）

日本人住民と外国人住民が同じ市内で快適に生活する上で不足している住生活の支援について訊ねたところ、「生活マナーの共有」が最も多く約75%、次いで「外国語による生活ルールの情報提供」が多く約60%、次いで「お互いの習慣や文化を理解する機会の増加」が多く約46%であった。

図表 日本人住民と外国人住民が快適に生活するために不足している住生活支援

選択肢	回答数	割合
外国語による住宅情報の提供	125	18.3%
外国語による生活ルールの情報提供	411	60.2%
お互いの習慣や文化を理解する機会の増加	316	46.3%
生活マナーの共有	509	74.5%
言語の違いを超えてコミュニケーションができるようなツールの提供	278	40.7%
その他	16	2.3%
回答者数	683	100.0%

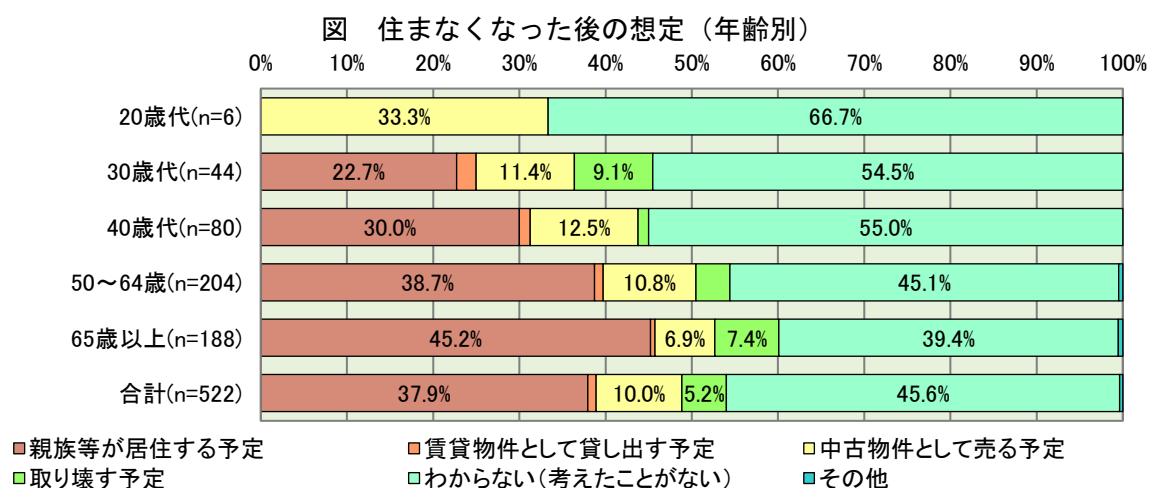


### 3. 目的別集計（クロス集計）の結果

#### 3.1. 住宅分野（空き家対策）

##### 3.1.1. 高齢者は住まなくなった後の想定ができていないか

世帯主が住まなくなった後の現在の住宅の使われ方について年齢別にみると、年齢が上がるほど「わからない（考えたことがない）」の割合が減少し、「親族等が居住する予定」が増加している。年齢が上がるほど世帯主が住まなくなった後の状況を具体的に想定する人が多いことが読み取れる。一方で、65歳以上であっても4割弱の人が具体的な使われ方を想定できていない。

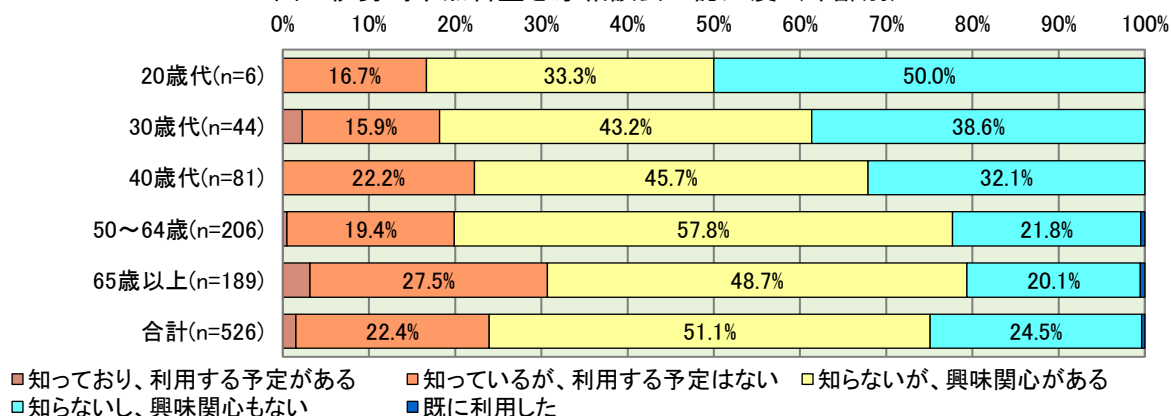


### 3.1.2. 高齢者は空き家未然防止施策を認知しているか

#### (1) 伊勢崎市無料空き家相談会

空き家になることを未然に防止するための施策の認知度について年齢別にみる。まず、伊勢崎市無料空き家相談会については、年齢が上がるほど「知らないが、興味関心がある」と答える割合が増加する傾向が見られる。これは年齢が上がるほど自宅の相続や売買などが喫緊の問題として関心が高まるためと考えられる。

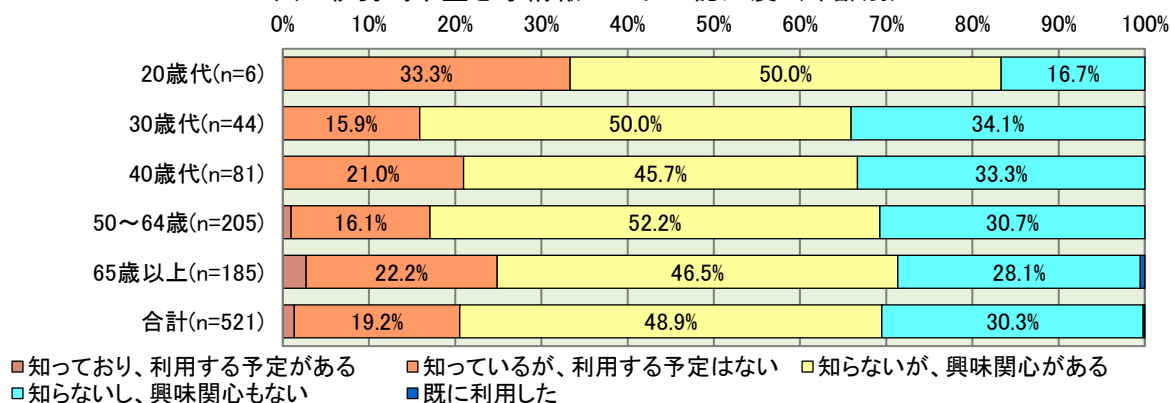
図 伊勢崎市無料空き家相談会の認知度（年齢別）



#### (2) 伊勢崎市空き家情報バンク

空き家情報バンクについては、どの年齢層の人も「知らないが、興味関心がある」が約5割であり、年齢層との関連性は見られない。これは空き家情報バンクの仕組みが自身の空き家を提供する人だけでなく、安く空き家を購入したい人にとってもニーズがあるためと考えられる。

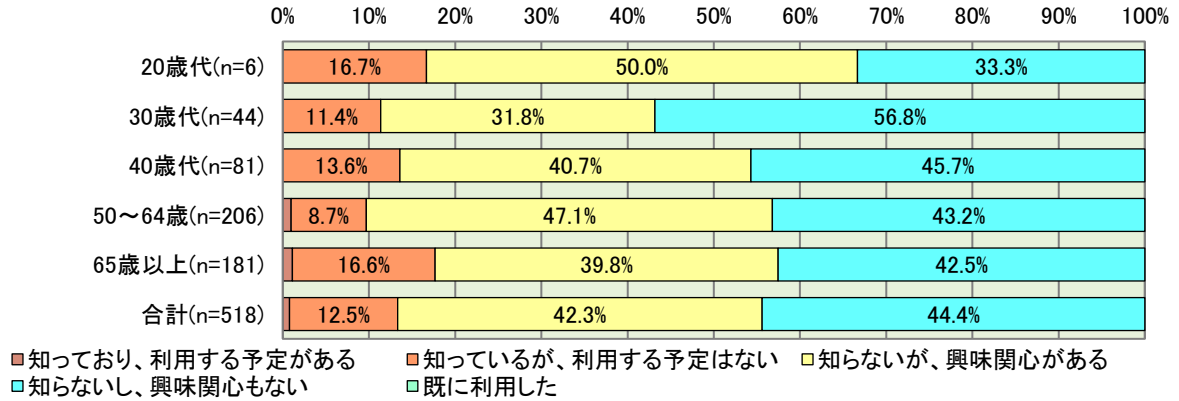
図 伊勢崎市空き家情報バンクの認知度（年齢別）



(3) 群馬県空き家活用・住みかえ支援事業

群馬県空き家活用・住みかえ支援事業については、どの年齢層でも「知らないが、興味関心がある」が約3割～約5割であり、年齢層との関連性は見られない。同制度の借り上げの条件は50歳以上の方であるが、50歳以上と50歳未満の方の間で、認知度や興味関心に大きな差異は見られない。

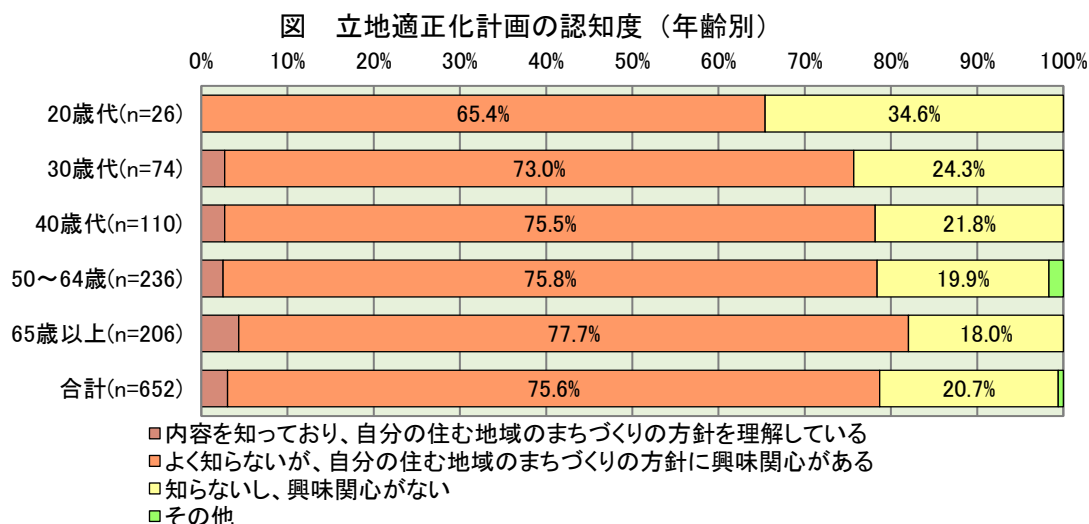
図 群馬県空き家活用・住みかえ支援事業の認知度（年齢別）



## 3.2. 都市計画分野（立地適正化計画）

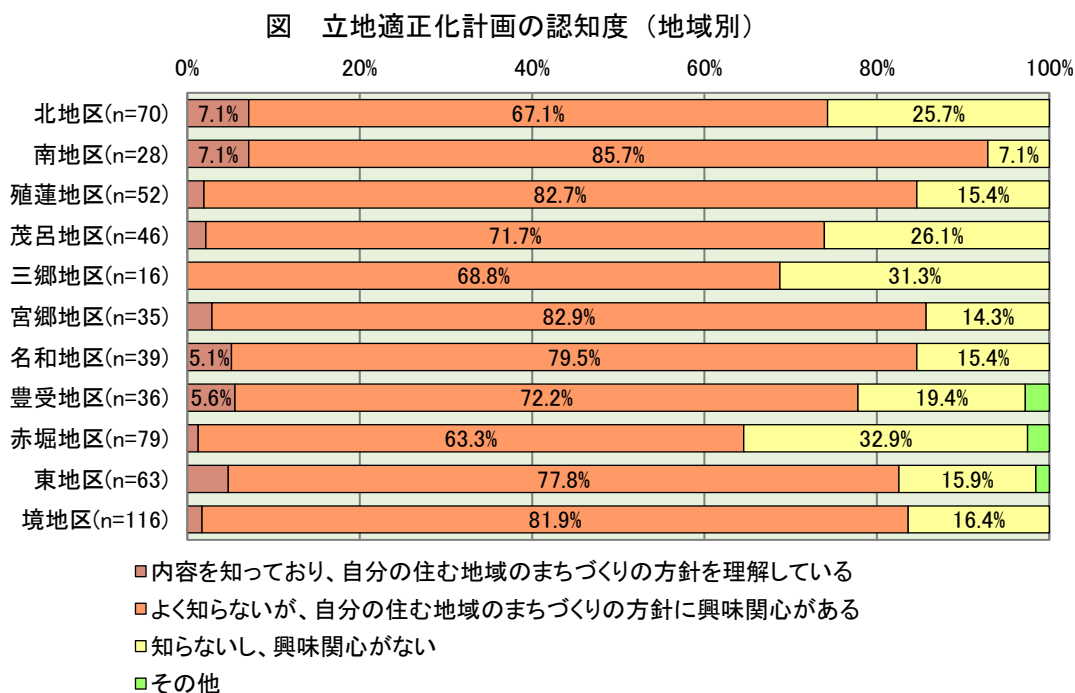
### 3.2.1. どの年齢層の人がまちづくりに興味関心があるか

立地適正化計画の認知度について年齢別にみると、どの年齢層でも「よく知らないが、自分の住む地域のまちづくりの方針に興味関心がある」と答えた人が約7割を占めている。これに「内容をよく知っており、自分の住む地域のまちづくりの方針を理解している」と答えた人と合わせた割合は、年齢が上がるほど高くなっている（20歳代は約65%、65歳以上は約82%）。



### 3.2.2. どの地域の人がまちづくりに興味関心があるか

立地適正化計画の認知度について地域別にみると、まちづくりの方針への興味関心が高いのは南地区であり、反対に三郷地区や赤堀地区は低い。南地区は本町1丁目を始め中心市街地を含むエリアであり、赤堀地区は旧赤堀町（非線引き都市計画区域）のエリア、三郷地区は波志江町を始め郊外の市街化区域縁辺部を含むエリアである。



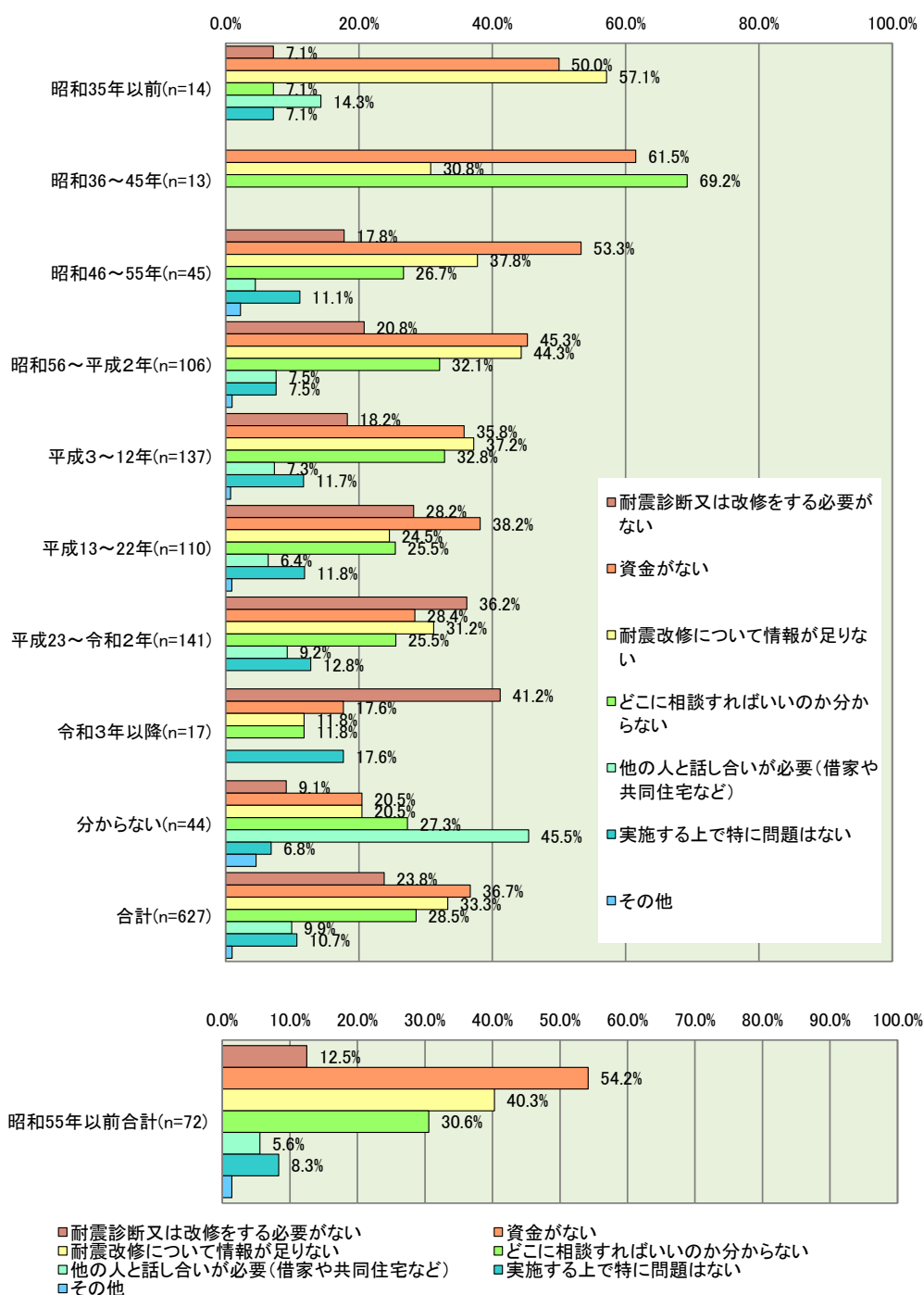


### 3.3. 防災分野（耐震改修、自然災害への備え）

#### 3.3.1. 昭和55年以前の住宅に住む人は耐震改修等を実施する上で何がハードルなのか

耐震診断・耐震改修を実施する上での問題点を住宅の完成時期別にみる。旧耐震基準で建築された昭和55年以前の住宅に住む人に着目すると、「資金がない」と答える人が最も多く約54%、次いで「耐震改修について情報が足りない」と答える人が多く約40%、次いで「どこに相談すればいいのかわからない」が多く約31%であった。

図 耐震診断・耐震改修を実施する上での問題点（住宅の完成時期別）

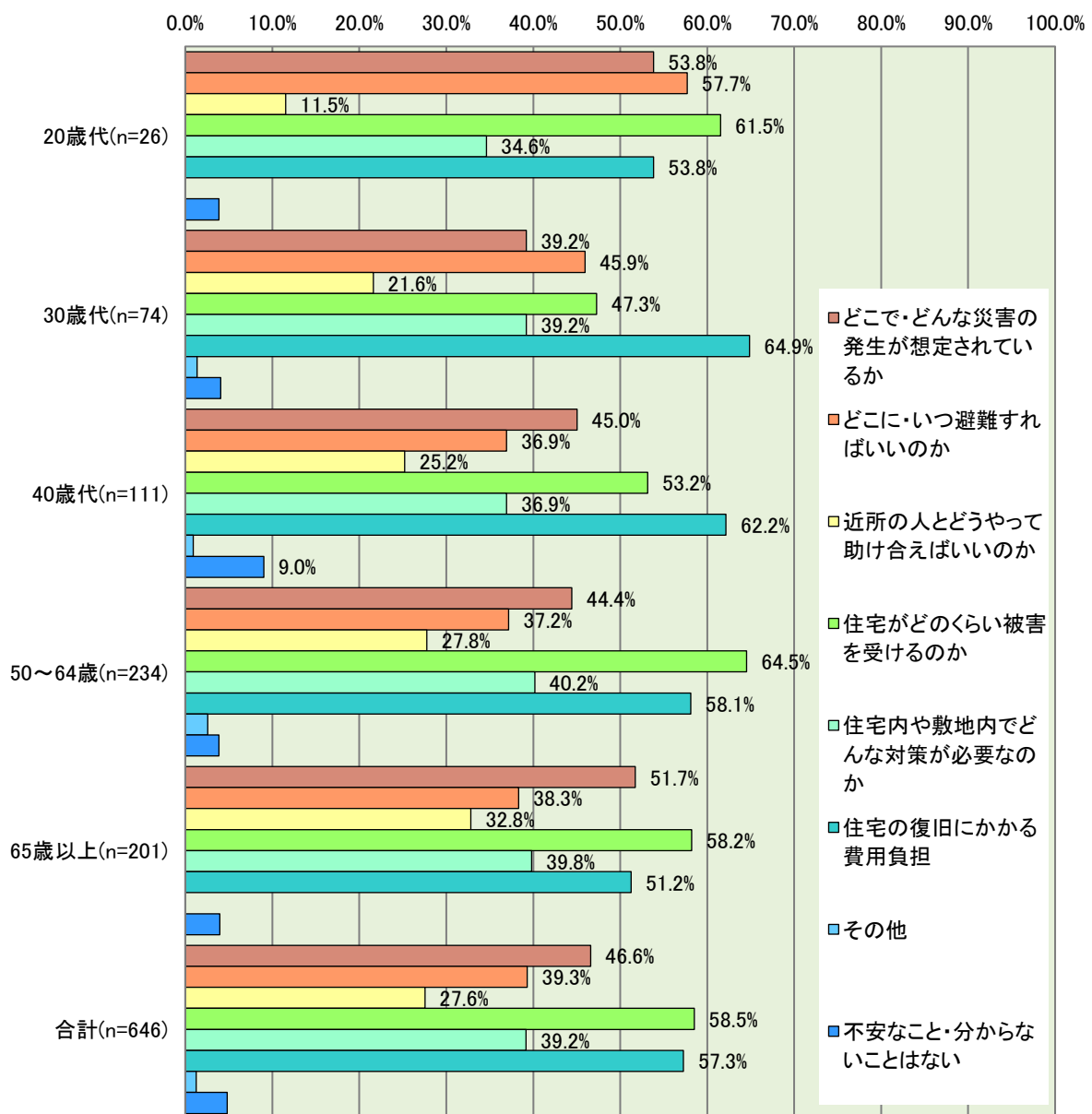


### 3.3.2. どの年齢層の人が自然災害にどのような不安を抱えているか

自然災害に対する不安なこと・分からないことを年齢別に見る。30歳代と40歳代は「住宅の復旧にかかる費用負担」を挙げる回答者が最も多く、約6割～約7割を占める。50歳代以上は「住宅がどのくらい被害を受けるのか」を挙げる回答者が最も多く、約6割～約7割であった。

「どこで・どんな災害の発生が想定されているか」の選択肢に着目すると、20歳代は約54%、65歳以上は約52%であり、30歳代～64歳の年齢層よりもやや高い。また「どこに・いつ避難すればいいのか」の選択肢に着目すると、20歳代は約58%、30歳代は約46%であり、40歳代以上は約3割～約4割となっている。災害リスクや避難先の情報への不安は、若い世代や高齢者が特に抱えていると推察される。

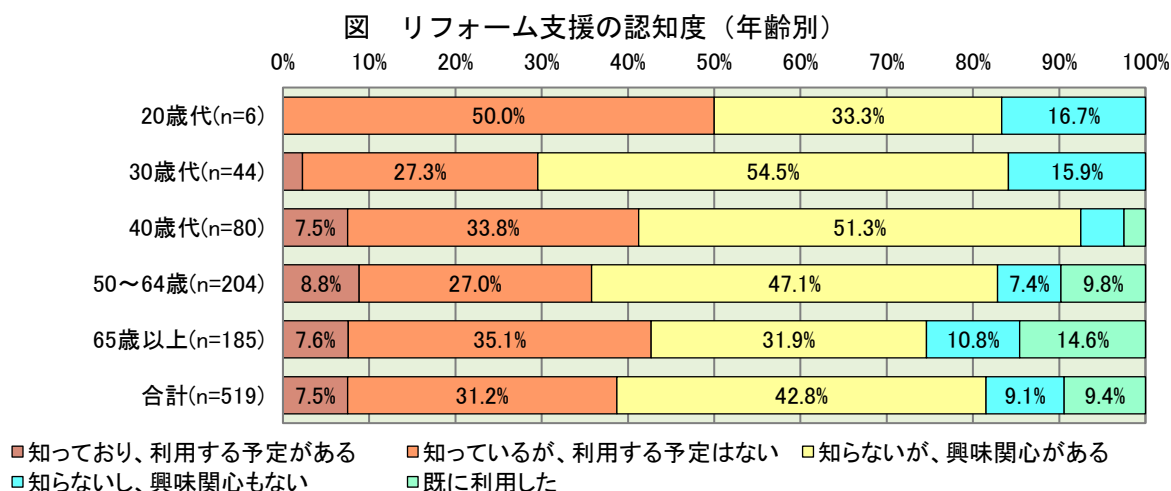
図 自然災害に対する不安なこと・分からないこと（年齢別）



### 3.4. 環境分野（リフォーム支援施策の認知度）

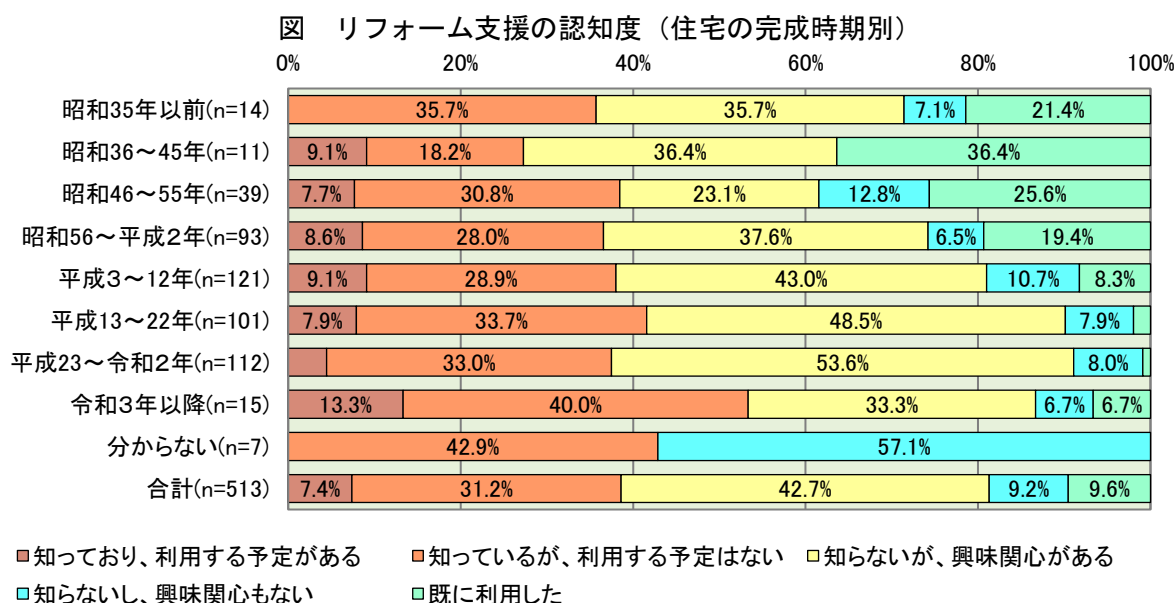
#### 3.4.1. どの年齢層の人がリフォーム支援施策を認知しているか

相談会や補助金交付といったリフォーム支援施策の認知度を年齢別に見ると、年齢が上がるほど「知っており、利用する予定がある」や「既に利用した」の回答割合が高くなる。30歳代や40歳代は「知らないが、興味関心がある」の割合が約5割～約6割と他の年齢層に比べて高い。



#### 3.4.2. いつ頃に完成した住宅の居住者がリフォーム支援施策を認知しているか

相談会や補助金交付といったリフォーム支援施策の認知度を住宅の完成時期別に見ると、古い住宅の居住者ほど「既に利用した」の割合が高い。また、新しい住宅の居住者ほど「知っているが、利用する予定はない」の割合が高いが、一方で「知らないが、興味関心がある」の割合も高い。比較的新しい平成23年～令和2年の住宅の居住者であっても、約54%が関心を寄せている。



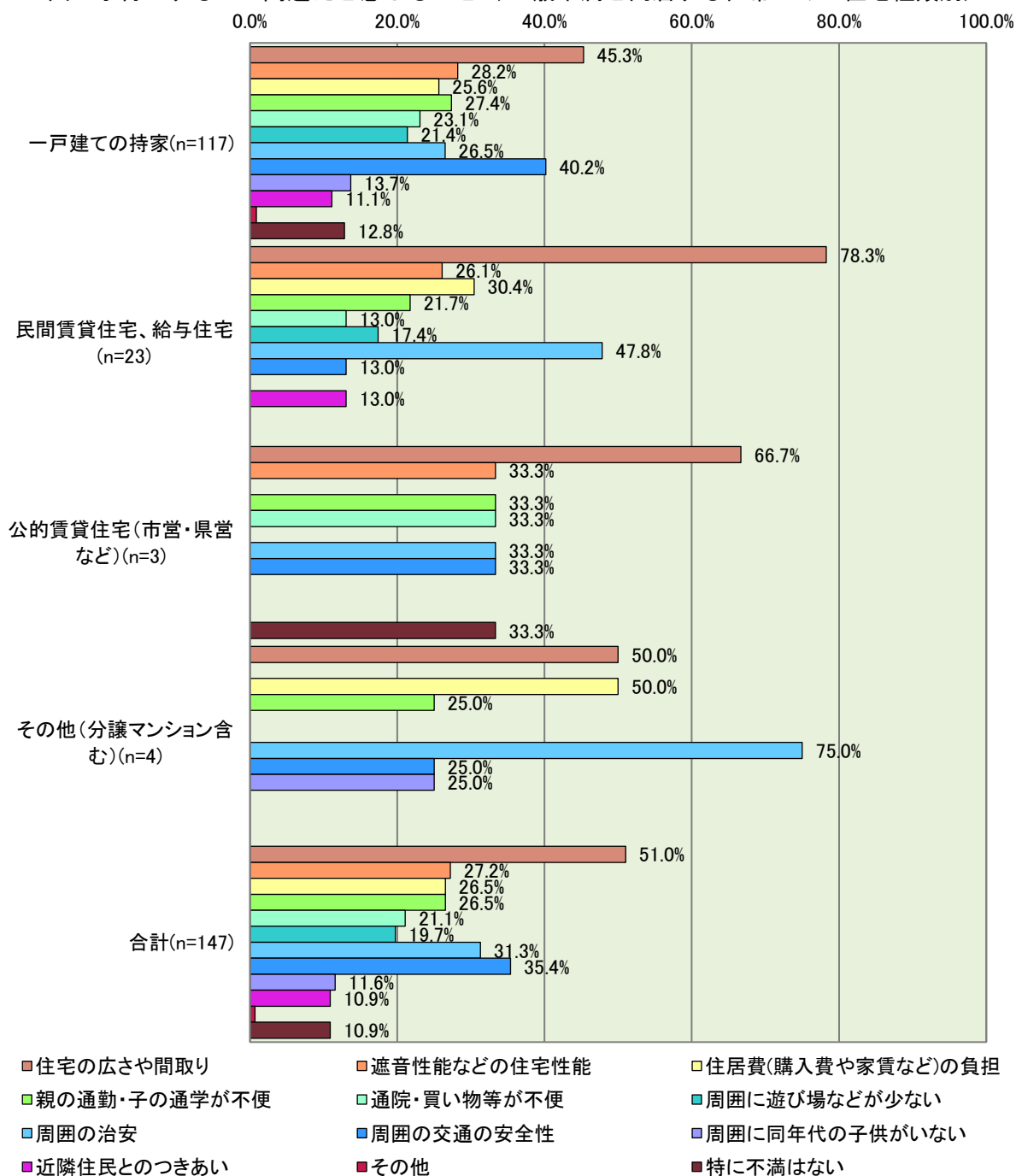
### 3.5. 子育て分野（子育てする上での問題）

#### 3.5.1. 現在子育てしている人の子育てする上での問題（18歳未満と同居する世帯のみ）

18歳未満と同居する世帯に限定して、現在の住宅で子育てする上での問題を住宅種類別に見る。どの住宅種別でも「住宅の広さや間取り」を答える人が多く、特に民間賃貸住宅や公的賃貸住宅の世帯は約7割～約8割が問題視している。

一戸建て持家の世帯は、広さや間取りに次いで、「周辺の交通の安全性」が高く約40%であり、次いで「遮音性能などの住宅性能」が高く約28%である。

図 子育てする上で問題だと感じること（18歳未満と同居する世帯のみ・住宅種類別）

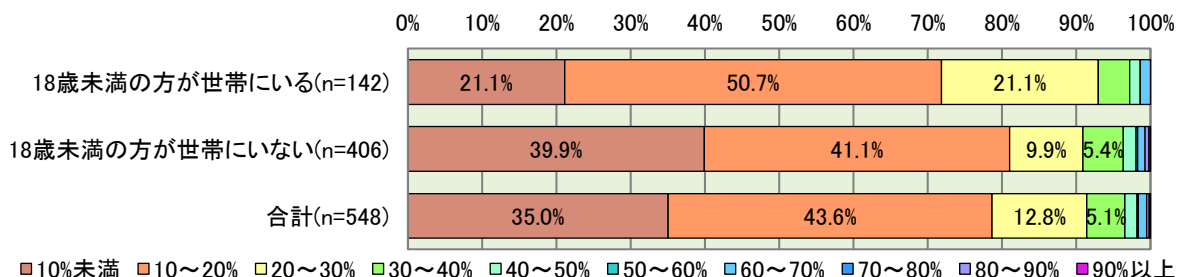


### 3.5.2. 子育てしている人の住居費負担はどの程度か

18歳未満の方の有無別に、世帯年収に占める住居費の割合を見ると、18歳未満の方がいる世帯の方が負担度20%以上の人が多い（18歳未満がいる世帯：約28%、いない世帯：約19%）。

なお、18歳未満の方がいる世帯もいない世帯も、「10～20%」が最も多く約4割～約5割である。

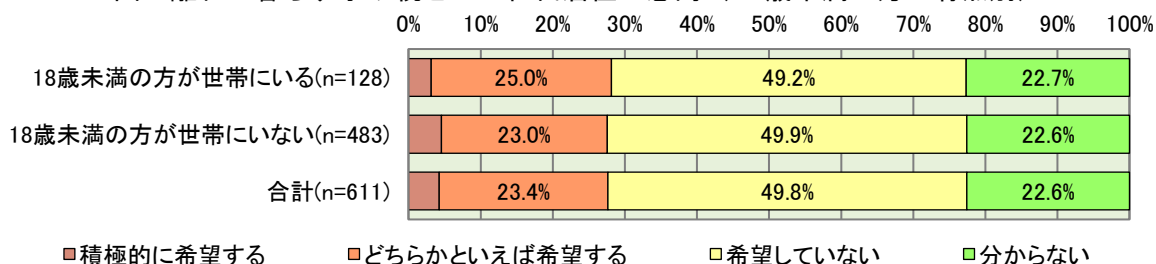
図 世帯年収に占める住居費の割合（18歳未満の方の有無別）



### 3.5.3. 子育てしている人は三世代居住を希望しているか

18歳未満の方の有無別に、離れて暮らす子や親との三世代居住の意向を見ると、18歳未満の方がいる世帯もいない世帯も、「積極的に希望する」と「どちらかといえば希望する」の合計割合はほぼ同程度の約3割弱であった。

図 離れて暮らす子や親との三世代居住の意向（18歳未満の方の有無別）



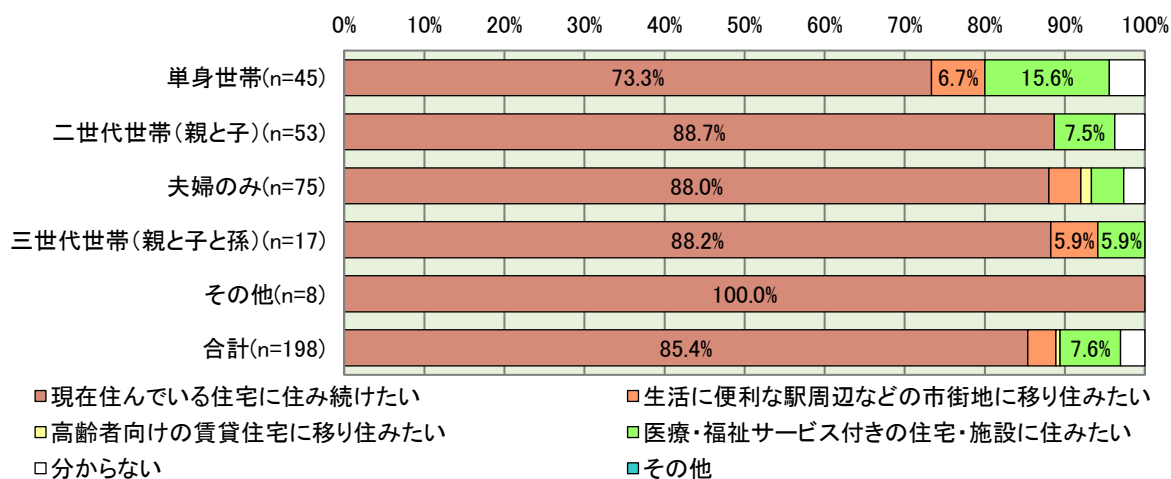
### 3.6. 高齢者福祉分野（希望する住宅）

#### 3.6.1. 高齢者の状況によって希望する住宅にどのような差があるか

年齢が65歳以上の回答に限定して、世帯構成別に希望する住まいについて訊ねたところ、便利な駅周辺や高齢者向けの賃貸住宅に移り住むことを希望する人は、特に単身世帯に多い（約22%）。

なお、どのような世帯構成でも「現在住んでいる住宅に住み続けたい」が約7割以上と最も多い。

図 65歳以上になったときに希望する住宅（年齢が65歳以上の回答者のみ・世帯構成別）

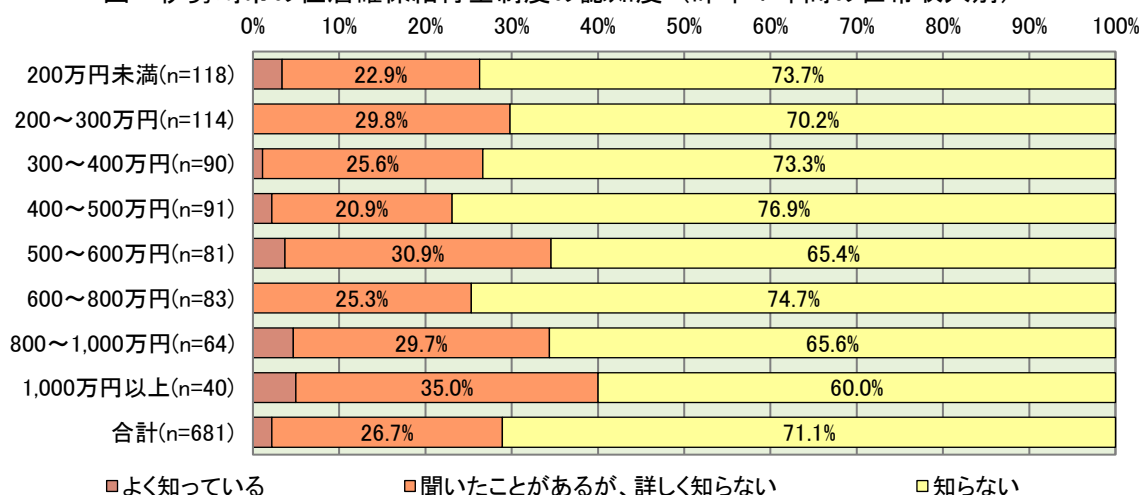


### 3.7. セーフティネット（生活困窮者支援の認知度）

#### 3.7.1. 低所得者の認知度（伊勢崎市の住居確保給付金制度）

伊勢崎市の住居確保補助金制度の認知度について年収別に見ると、どの年収区分の回答者も約6割～約8割が「知らない」と回答している。「よく知っている」と「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」の合計割合は、最も年収が低い200万円未満でも約26%である。

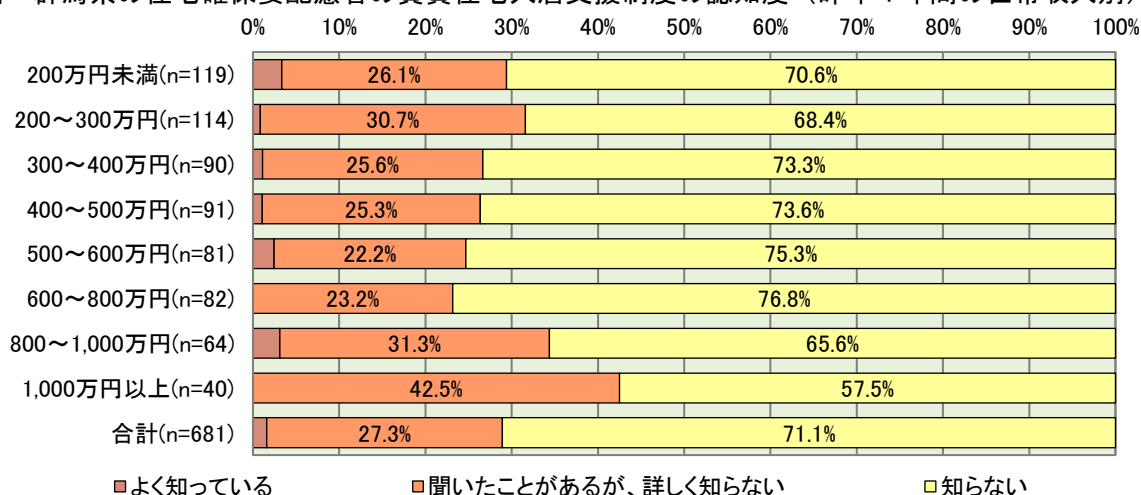
図 伊勢崎市の住居確保給付金制度の認知度（昨年1年間の世帯収入別）



#### 3.7.2. 低所得者の認知度（群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居支援制度）

同様に群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居支援制度の認知度について年収別に見ると、どの年収区分の回答者も約6割～約8割が「知らない」と回答している。「よく知っている」と「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」の合計割合は、最も年収が低い200万円未満でも約29%である。

図 群馬県の住宅確保要配慮者の賃貸住宅入居支援制度の認知度（昨年1年間の世帯収入別）

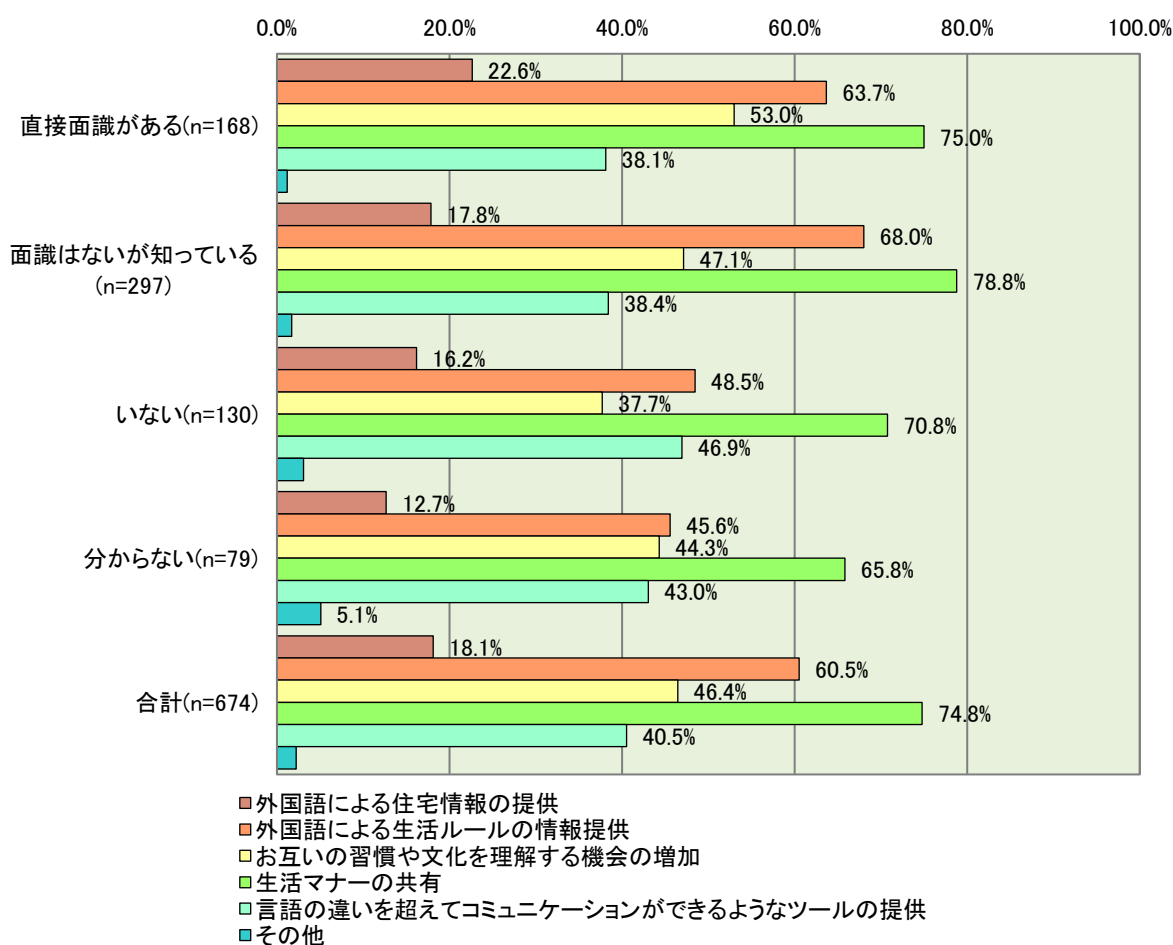


### 3.8. 外国人住民

日本人住民と外国人住民が同じ市内で快適に生活する上で不足している住生活の支援について、外国人住民との面識の度合い別に見ると、直接面識があるかどうかに関わらず、「生活マナーの共有」を挙げる人が最も多く、約8割～約6割となっている。次いで「外国語による生活ルールの情報提供」が多く、約7割～約5割である。面識の有無に関わらず、生活マナーに関する支援の不足を挙げる人が多いと言える。

一方で、「お互いの生活習慣や文化を理解する機会の増加」の選択肢に着目すると、直接面識がある人はそれ以外の人に比べて約53%とやや割合が高い。

図 日本人住民と外国人住民が快適に生活するために不足している住生活支援  
(外国人住民との面識別)





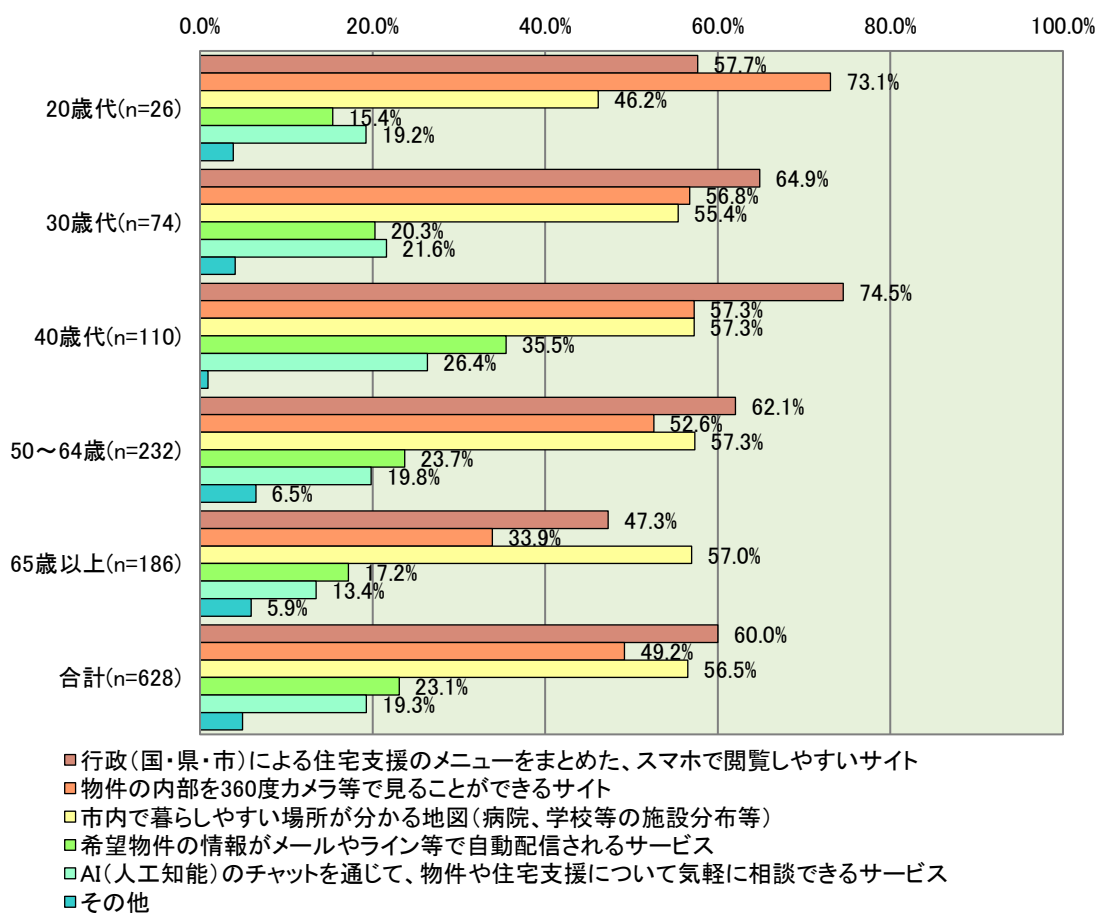
### 3.9. ニューノーマル、DX

#### 3.9.1. 市のHPにあると良い情報

市のHPにあると良い情報について年齢別に見ると、20歳代は「物件の内部を360度カメラ等で見ることができるサイト」を挙げる人が約73%と最も多い。30歳代～64歳は「行政による住宅支援のメニューをまとめたサイト」を挙げる人が約6割～約7割と多い。65歳以上は「市内で暮らしやすい場所が分かる地図」を挙げる人が約57%と最も多い。一方でAIによる相談サービスを挙げる人の割合はどの年齢層でも低い。

スマホで閲覧しやすい住宅支援メニューや、暮らしやすい場所の地図など、既存の情報に分かりやすく、かつ手軽にアクセスできることへの要望が高いことが分かる。

図 市のHPにあると良い情報（年齢別）



### 3.9.2. 在宅勤務等に適した設備・間取り

在宅勤務等に適した設備・間取りに関する満足度を現在の住宅の広さ別に見ると、狭い住宅の居住者ほど「満足」と「まあ満足」の割合が低い（25㎡未満：約36%）。一方で、同項目の将来の重要度を住宅の広さ別に見ると、住宅の広さと重要度の高さに関連性は見られず、「高い」と「まあ高い」の合計は150㎡以上の居住者も25㎡未満の居住者も約6割程度であった。

図 在宅勤務等に適した設備・間取りに関する満足度（現在の住宅の広さ別）

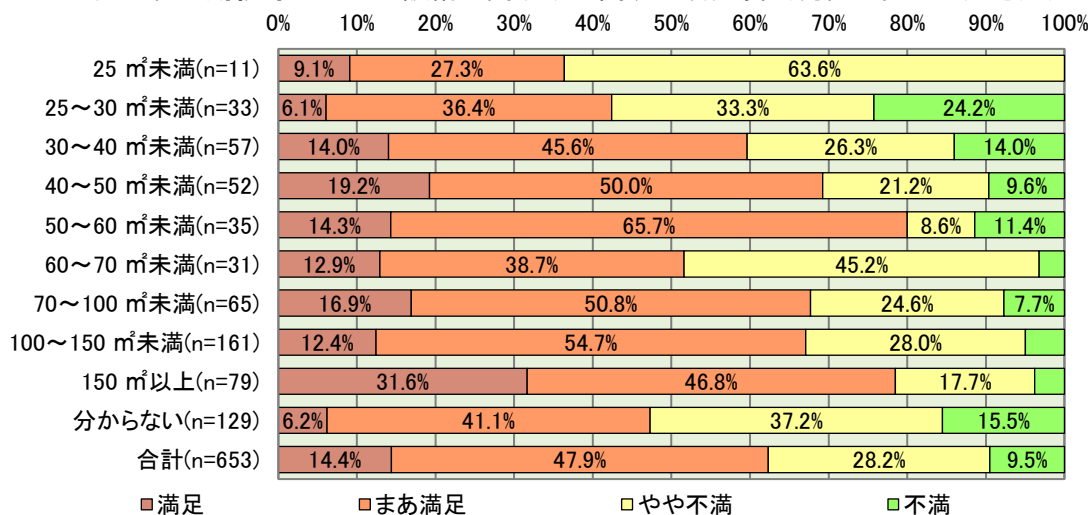
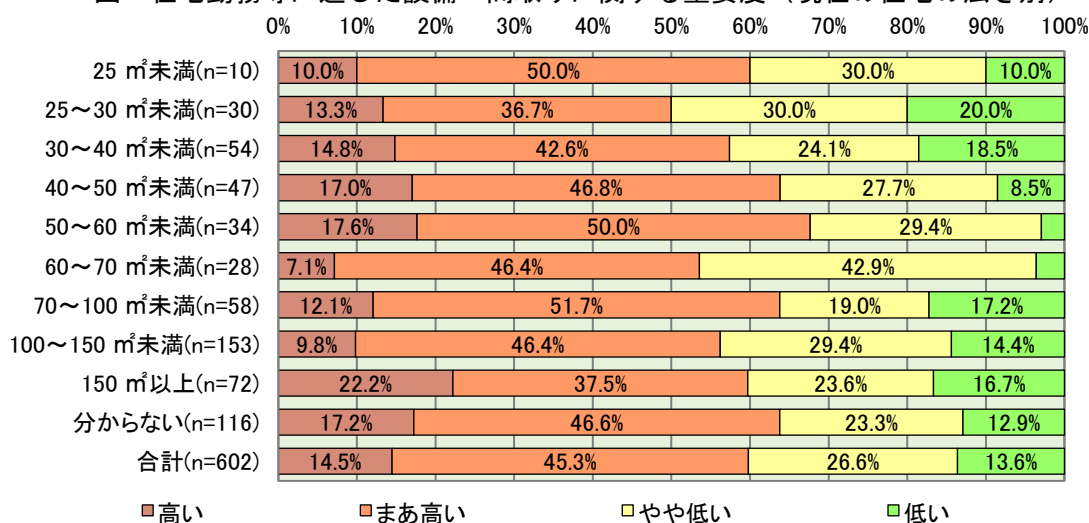


図 在宅勤務等に適した設備・間取りに関する重要度（現在の住宅の広さ別）



## 4. 自由回答（問 25） 一覧

自由記述の内容を分類すると、主に住宅周辺の「道路」や、自身の「子ども・子育て」、また市政全般に関する意見が多く寄せられた。

図表 自由記述の内容

自由記述の内容	回答数	割合
住環境	8	4.8%
空き家・空き地	18	10.9%
リフォーム・改築	6	3.6%
公営住宅	4	2.4%
セーフティネット	6	3.6%
道路	27	16.4%
農地	6	3.6%
上下水道	6	3.6%
公園	15	9.1%
治安	5	3.0%
コミュニティ	5	3.0%
ごみ	11	6.7%
マナー	7	4.2%
都市計画	8	4.8%
公共交通	12	7.3%
買い物環境	10	6.1%
子ども・子育て	31	18.8%
高齢者	7	4.2%
防災	8	4.8%
図書館	5	3.0%
駐車場	5	3.0%
外国人	20	12.1%
市政	25	15.2%
DX	5	3.0%
アンケート	9	5.5%
その他	1	0.6%
回答者数	165	100.0%

